# 本書をお読みになる前に

## 本書の構成

本書は、以下の内容で構成されています。

| 章タイトル | 内容 |
|---|---|
| 第 1 章<br>ネットワーク構築の設定方法 | ServerStart を使用してサーバをセットアップする際に構築できるネットワークパターン別の設定方法について説明しています。 |
| 第 2 章<br>WizardConsole | WizardConsole を使用したネットワークアカウントの設定方法や、クライアントへのインストール方法について説明しています。 |

## 本書の表記

### ■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

| | |
|---|---|
| 重要 | お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。 |
| POINT | ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。 |
| → | 参照ページや参照マニュアルを示しています。 |

### ■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

### ■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を以下のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
          ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
- 上記のようなコマンド入力について、英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、［CD-ROM ドライブ］で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

  ［CD-ROM ドライブ］:¥setup.exe

### ■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

### ■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例：　「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
↓
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

### ■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

| 製品名称 | 本文中の表記 |
|---|---|
| Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition | Windows Server 2003 |
| Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition | |
| Microsoft® Windows® Small Business Server 2003 | SBS 2003 |
| Microsoft® Windows® 2000 Server | Windows 2000 Server |
| Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server | |
| Microsoft® Windows® Preinstallation Environment | Windows PE |
| Microsoft® Windows® XP Professional | Windows XP Professional |
| Microsoft® Windows® 2000 Professional | Windows 2000 Professional |
| Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System 4.0 | Windows NT |
| Microsoft® Windows® 98 Operating System | Windows 98 |
| Microsoft® Windows® Millennium Edition | Windows Me |
| Windows 98 と Windows Me を合わせて | Windows 98/Me |

## 参考情報

### ■ ソフトウェア説明書について

ServerStart では、本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「ソフトウェア説明書」に記載されています。ServerStart をお使いになる前に、必ずお読みください。
「ソフトウェア説明書」は、"README.TXT" というファイル名で、ServerStart CD-ROM のルートディレクトリに登録されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。

### ■ ServerStart に関する最新情報について

ServerStart に関する最新の情報は、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ（http://www.fmworld.net/biz/primergy/）に記載されています。

# 商標

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。
Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2004

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

# 目　次

## 第 1 章　ネットワーク構築の設定方法


**1.1 ネットワークパターンについて . . . . . 8**
1.1.1 各ネットワークパターンの特長 . . . . . 8
**1.2 Active Directory －新しいフォレストの構築 . . . . . 11**
1.2.1 新しいフォレスト構築時の設定方法 . . . . . 11
**1.3 Active Directory －新しいツリーの構築 . . . . . 14**
1.3.1 新しいツリー作成前の準備 . . . . . 14
1.3.2 DNS ゾーンの作成 . . . . . 14
1.3.3 新しいドメインツリーの設定方法 . . . . . 16
**1.4 Active Directory －追加ドメインコントローラの構築 . . . . . 20**
1.4.1 追加ドメインコントローラ構築時の設定方法 . . . . . 20
**1.5 Active Directory －子ドメインの構築 . . . . . 24**
1.5.1 子ドメインを構築する前に . . . . . 24
1.5.2 子ドメイン構築時の設定方法 . . . . . 24
**1.6 ドメインメンバサーバの構成 . . . . . 28**
1.6.1 ドメインメンバサーバ構築時の設定 . . . . . 28
**1.7 スタンドアロンサーバの構成 . . . . . 30**


## 第 2 章　WizardConsole


**2.1 概要 . . . . . 32**
2.1.1 クライアントコンピュータのセットアップ操作の流れ . . . . . 32
2.1.2 WizardConsole の各機能 . . . . . 33
2.1.3 各 OS 環境における利用可能な機能 . . . . . 34
2.1.4 WizardConsole を利用するための準備 . . . . . 35
**2.2 クライアントコンピュータの追加／変更 . . . . . 37**
2.2.1 コンピュータの追加／変更 . . . . . 39
2.2.2 コンピュータ情報の取得 . . . . . 40
2.2.3 コンピュータの一括導入 . . . . . 40
2.2.4 コンピュータの削除 . . . . . 41
**2.3 ユーザ、グループ、共有資源の追加／変更 42**
2.3.1 ユーザの追加／変更 . . . . . 43
2.3.2 グループの追加／変更 . . . . . 44
2.3.3 共有資源フォルダの追加／変更 . . . . . 45
2.3.4 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け . . . . . 46
**2.4 リモート OS セットアップ . . . . . 50**
2.4.1 リモート OS セットアップを起動する . . . . . 50
2.4.2 OS セットアップ情報を設定する . . . . . 51
2.4.3 OS セットアップ情報の登録名を変更する . . . . . 52

2.4.4 OS セットアップ情報を確認／変更する . . . . . 53
2.4.5 CD-ROM イメージを削除する . . . . . 53
**2.5 クライアントセットアップ . . . . . 54**
2.5.1 クライアントセットアップを起動する . . . . . 54
2.5.2 セットアップ情報（アプリケーション）を追加する . . . . . 57
2.5.3 セットアップ情報（ファイル）を追加する . . . . . 59
2.5.4 セットアップ情報（実行コマンド）を追加する . . . . . 59
2.5.5 セットアップ情報の内容確認／設定変更 . . . . . 60
2.5.6 セットアップ資源をサーバへ登録する . . . . . 60
2.5.7 セットアップ資源の登録解除 . . . . . 62
**2.6 デスクトップ環境設定 . . . . . 63**
2.6.1 「デスクトップ環境設定」画面での操作 . . . . . 65
2.6.2 デスクトップ環境の設定 . . . . . 66
**2.7 クライアントブート設定 . . . . . 69**
2.7.1 クライアントブート設定を起動する . . . . . 70
2.7.2 OS セットアップ用 . . . . . 71
2.7.3 ClientWizard 用フロッピーディスクの作成 . . . . . 73
2.7.4 クライアントのインストール方法、起動方法の変更 . . . . . 73
**2.8 クライアントへのインストール . . . . . 74**
2.8.1 クライアントに OS がインストールされていない場合 . . . . . 74
2.8.2 クライアントに OS がインストールされている場合 . . . . . 75
2.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング . . . . . 78
**2.9 変更した情報の登録 . . . . . 79**
**2.10 WizardConsole使用時の留意事項 . . . . . 80**
2.10.1 トラブルシューティング . . . . . 80
2.10.2 クライアントコンピュータの追加／変更時の留意事項 . . . . . 82
2.10.3 クライアントセットアップ機能に関する留意事項 . . . . . 82
2.10.4 CSV ファイルフォーマットについて . . . . . 84
**2.11 WizardMenuによるデスクトップメニューの作成 . . . . . 86**
2.11.1 動作環境 . . . . . 87
2.11.2 WizardMenu を作成する . . . . . 87
**2.12 WizardConsoleのアンインストール . . . . . 90**

# 第 1 章

# ネットワーク構築の設定方法

ServerStart を使用してサーバをセットアップする際に構築できるネットワークパターン別の設定方法について説明しています。


1.1 ネットワークパターンについて . . . . . 8
1.2 Active Directory －新しいフォレストの構築 . . . . . 11
1.3 Active Directory －新しいツリーの構築 . . . . . 14
1.4 Active Directory －追加ドメインコントローラの構築 . . . 20
1.5 Active Directory －子ドメインの構築 . . . . . 24
1.6 ドメインメンバサーバの構成 . . . . . 28
1.7 スタンドアロンサーバの構成 . . . . . 30

# 1.1　ネットワークパターンについて

ServerSart を使用してサーバをセットアップする際に構築できるネットワークパターンごとの、設定のポイントについて説明します。
ServerStart では、以下のネットワーク構成のサーバを構築できます。

・ドメインコントローラ（Active Directory ドメイン）サーバ
・ドメインメンバサーバ
・スタンドアロンサーバ

**POINT**

- それぞれのネットワークパターンを構築する場合の設定について、『環境設定シート』の「デザインシート」－「（インストール OS 用）OS ウィザードシート」にあらかじめ設定値を記入しておくと、インストール時にスムーズに設定が行えます。
- インストールする OS により設定画面が異なります。Active Directory ドメインの構成については、Windows 2000 Server を例に説明します。

**重要**

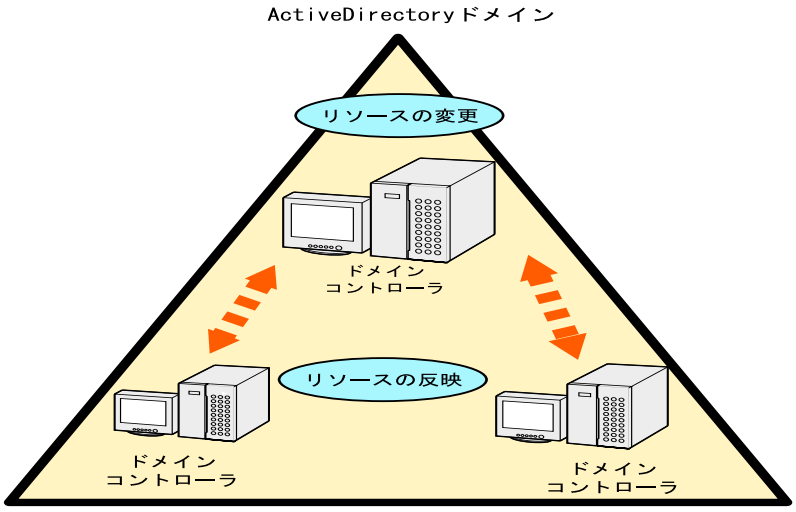
- ServerStart でドメインコントローラ（Active Directory ドメイン）の構築を行うと、富士通ドライバ自動適用ツールを使用することができません。富士通ドライバ自動適用ツールを使用する場合は、ドメインコントローラの構築は OS インストール後に行ってください。

## 1.1.1　各ネットワークパターンの特長

各ネットワークパターンの概要について説明します。どのネットワークパターンで運用を行うか、参考にしてください。

### ■ ドメインコントローラ

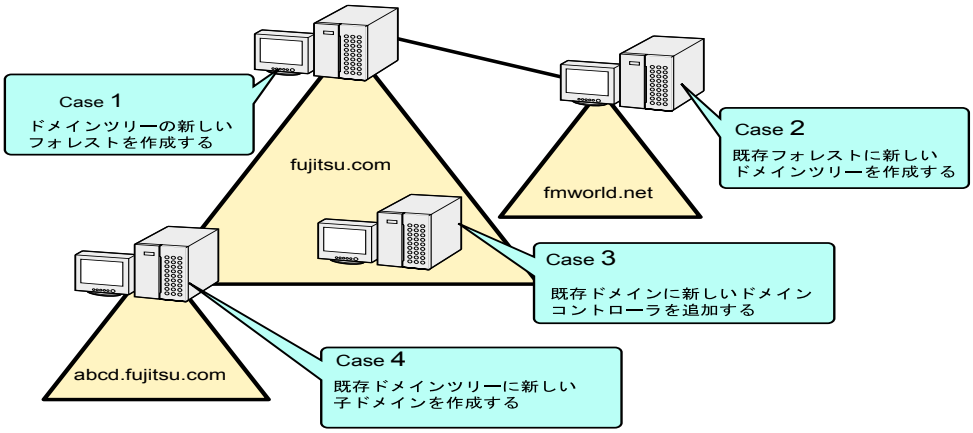
Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server ドメインは、Active Directory（LDAP をベースとしたディレクトリサービス）を基本に構築されており、一般的に Active Directory ドメインと呼ばれます。
Active Directory では、PDC（プライマリドメインコントローラ）と BDC（バックアップドメインコントローラ）という概念はなく、Active Directory 内の、あるドメインコントローラ上で変更されたリソースは、同じネットワークにあるすべてのドメインコントローラに反映されます。このため、Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server をドメインコントローラとする場合は、Active Directory に関して理解しておく必要があります。




## ● Active Directory の構築パターン

Active Directory を構築するには、次の 4 つのパターンがあります。

- Case1: 新しいフォレスト
- Case2: 新しいツリー
- Case3: 追加ドメインコントローラ
- Case4: 子ドメイン




**POINT**

Active Directory に関する基礎用語

- ドメインツリー
  ドメインツリーは、ドメインを構成する最小単位です。既存のドメインツリーに子ドメインを作成する場合、DNS サフィックスが継承されます。
- フォレスト
  1 つ以上のドメインツリーが、依存関係なく接続されている関係を表します。
  新しいドメインツリーを作成する場合、DNS サフィックスは継承されません。

**重要**

- ドメイン環境にアドオンされるクライアント OS のレベルにより、ドメインコントローラがサービスすべき WINS などのサービスをインストールする必要があります。
- インストールするネットワークパターンによっては、事前に上位ドメインコントローラ（DNS サーバ）の設定が必要になる場合があります。

## ■ ドメインメンバサーバとは

ドメインメンバサーバとは、ドメインに参加している多目的サーバを意味します。
権限があるドメイン内のすべてのリソースにアクセスすることができ、またアクセスされます。

## ■ スタンドアロンサーバとは

スタンドアロンサーバとは、一般にワークグループ環境と呼ばれる小規模な環境で利用するサーバを意味します。小規模な環境での利用を想定しているため、リソースにアクセスできる範囲が限定されるなどの制限があります。また、ネットワーク経由でスタンドアロンサーバのリソースにアクセスする場合、スタンドアロンサーバのローカルユーザ情報を参照するため、管理性が低くなります。

# 1.2 Active Directory －新しいフォレストの構築



新しいフォレストとして Active Directory を構築する場合、Active Directory は新しいシステム全体のルートドメインとして定義されます。そのため、この Active Directory の作成は、新しいシステムを作成する場合、または既存のシステムを新しいシステムとして作り変える場合に、最初に行う作業となります。
Active Directory を構築する前に、ネットワーク構成を十分検討して設計する必要があります。

**重要**

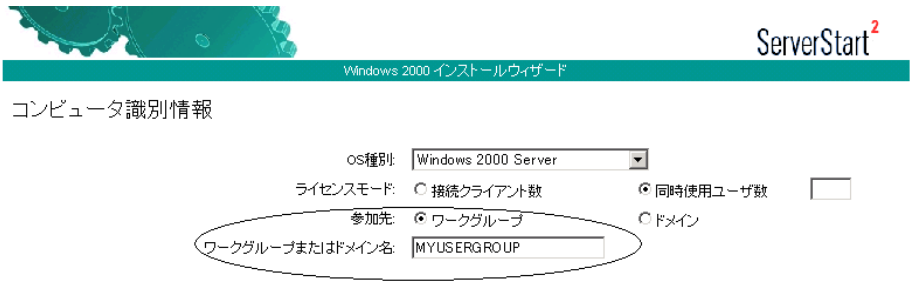
- 既存の DNS サーバを利用して Active Directory を構築することはできません。
- 既存の DNS を利用してドメインを構築する場合は、スタンドアロンサーバとして OS インストール後、手動でドメインの構築を行います。

## 1.2.1 新しいフォレスト構築時の設定方法

新しいフォレストとしてドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードの各画面で次のように設定してください。

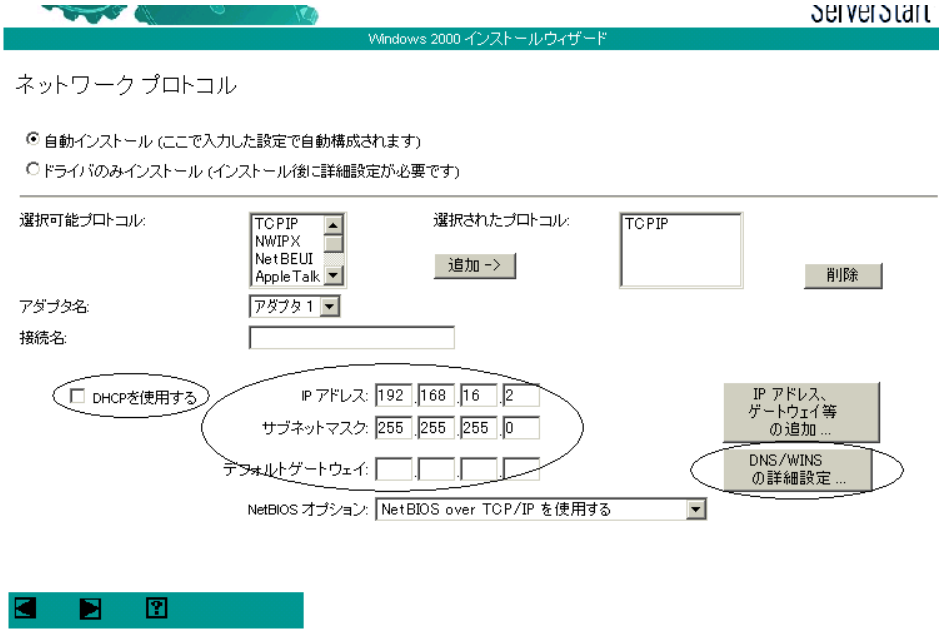
### ■「コンピュータ識別情報」画面

*1* 「参加先」を「ワークグループ」にして、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。

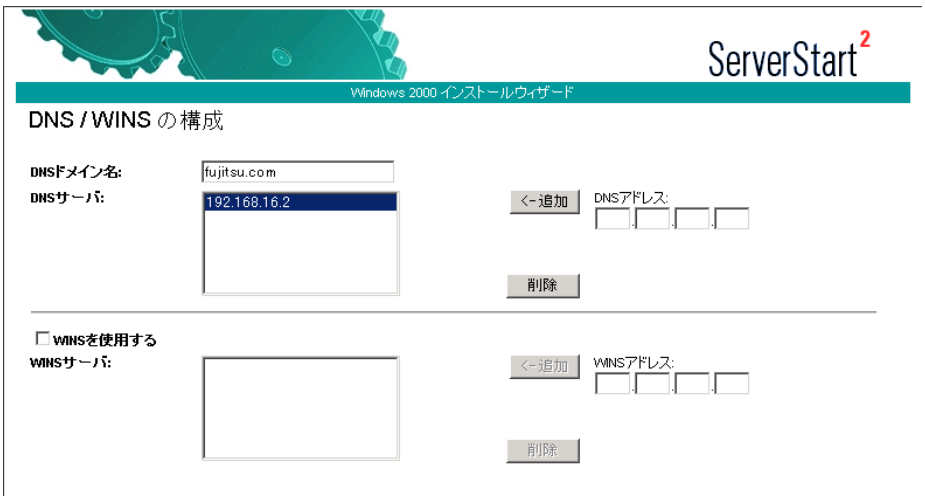


## ■「ネットワークプロトコル」画面

**1** 「DHCP を使用する」のチェックを外し、IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを指定します。




**2** ［DNS/WINS の詳細設定］をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。



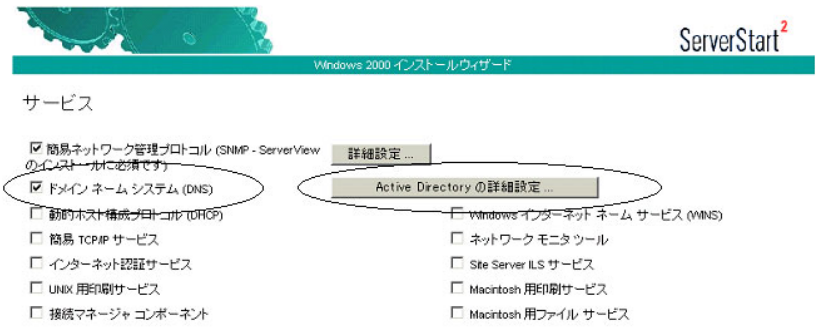

この例では、DNS ドメイン名を fujitsu.com とし、DNS サーバを自分自身（192.168.16.2）に設定しています。DNS ドメイン名は後の設定にも利用するので、必ず覚えておいてください。
必要に応じて WINS の設定も行います。

## ■「サービス」画面

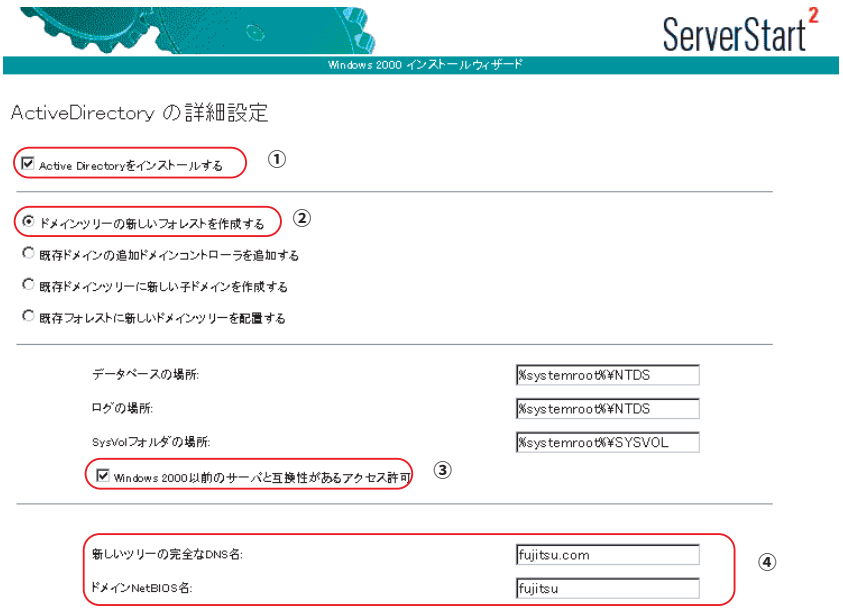
**POINT**

- OS インストールタイプの開封時は、「サービス」は設定できません。

**1** 「ドメインネームシステム（DNS）」にチェックを付け、［Active Directory の詳細設定］をクリックします。
WINS を設定した場合、「Windows インターネットネームサービス（WINS）」にチェックを付けます。




**2** 「Active Directory の詳細設定」画面で、各項目を設定します。




1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「ドメインツリーの新しいフォレストを作成する」が選択されていることを確認します。
3. Windows 2000 以前のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。
4. 「新しいツリーの完全な DNS 名」に DNS サーバ名を、「ドメイン NetBIOS 名」に NetBIOS 名を指定します。

# 1.3 Active Directory ー新しいツリーの構築

Active Directory を新しいツリーとして構築する場合の設定について説明します。

新しいツリーとして Active Directory を構築する場合、Active Directory は新しい下部組織のルートドメインとして定義されます。そのため、この Active Directory の作成は、新しいシステムを作成する場合、または既存のシステムを新しいシステムとして作り変える場合、一番最初に行う作業となります。

## 1.3.1 新しいツリー作成前の準備

新しいツリーを作成する前に、フォレストとの接続性を考えたネットワーク構成を十分検討して設計する必要があります。あらかじめ次の情報を確認してください。

- 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- 既存ルートドメインの管理者情報
- 新規ツリールートのネットワークアドレス
- 新規ツリーのドメイン名

**重要**

- Active Directory を構築する際、ServerStart を使った上記パターンのインストールでは、あらかじめ新しいツリーが使用する DNS ゾーンを作成しておく必要があります。

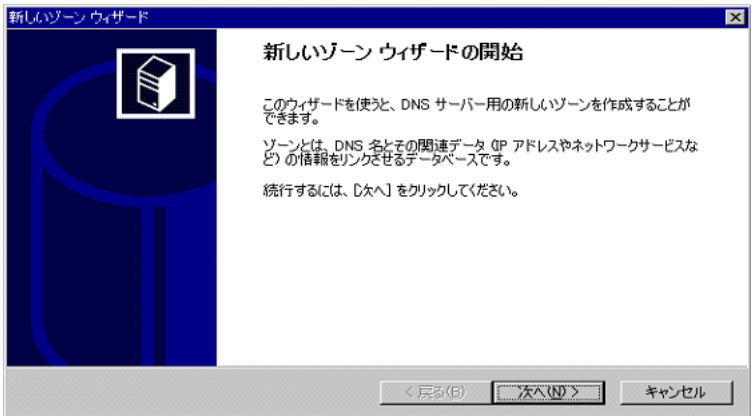
## 1.3.2 DNS ゾーンの作成

新しいツリーでは、DNS ゾーンを既存のフォレストに「新しいゾーン」として管理する必要があります。ここでは DNS ゾーンの作成方法について簡単に説明します。

次に、ServerStart を利用するために最低限必要な手順を示します。ただし、実際の運用・管理では、このほかに詳細なパラメータ設定が必要となる場合があります。管理方法なども含めて、Windows 2000 Server の Active Directory に関するマニュアルを参照してください。

1. 既存のフォレストのルートドメインコントローラに、ドメインの管理者権限でログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「DNS」の順にクリックします。

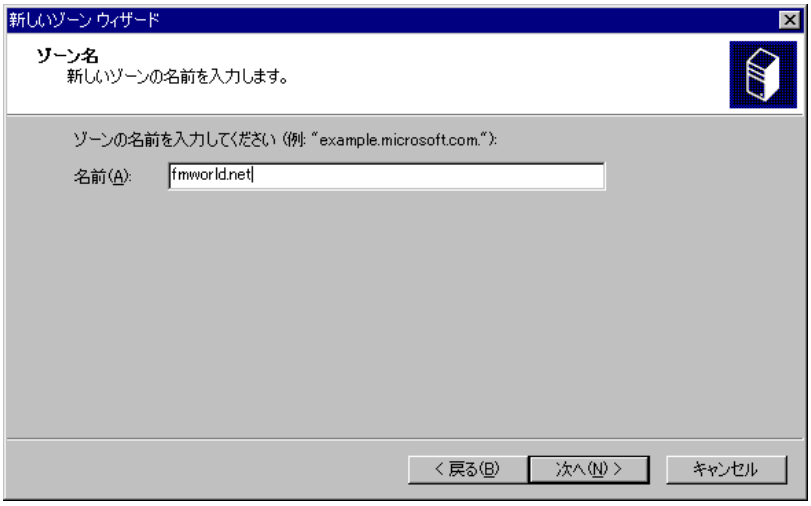
**3** コンソールツリーから DNS サーバを選択し、「操作」→「新しいゾーン」の順にクリックします。
新しいゾーンウィザードが起動します。




**4** ［次へ］をクリックします。
ゾーンの種類を選択する画面が表示されます。

**5** 「Active Directory 統合」ゾーンを選択して、［次へ］をクリックします。
ゾーン名を入力する画面が表示されます。

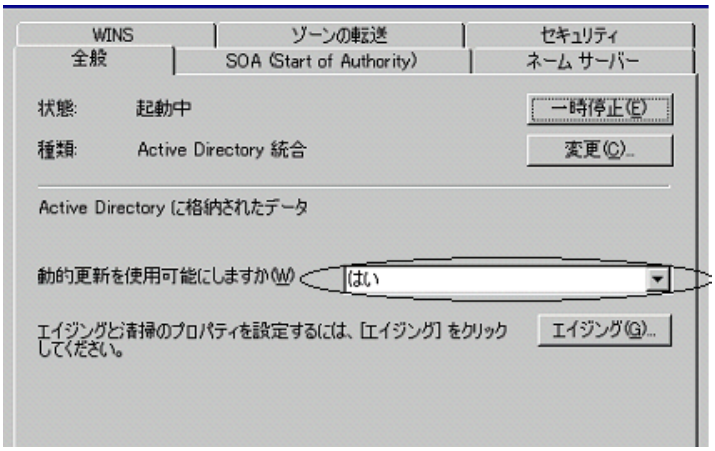
**6** ゾーン名を指定します。
このゾーン名が ServerStart の「DNS ドメイン名」に相当します。




**7** ［次へ］をクリックします。
完了画面が表示されるので、ゾーンが作成されていることを確認します。

**8** DNS ゾーンの設定を行います。作成したゾーンを右クリックし、プロパティをクリックします。

***9*** 「動的更新を使用可能にしますか」で「はい」を選択します。
これ以外のパラメータを選択すると、インストールに失敗します。

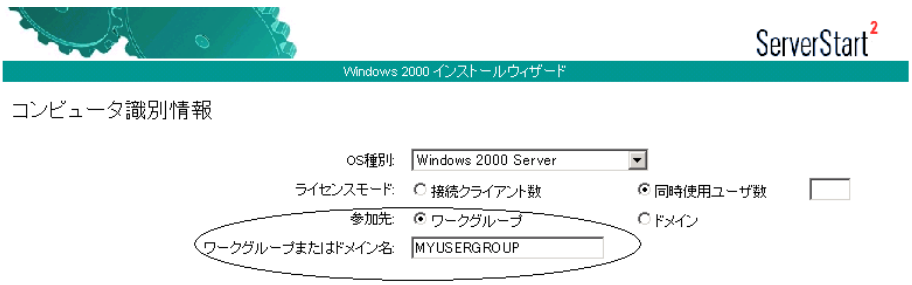



## 1.3.3　新しいドメインツリーの設定方法

新しいツリーとしてドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

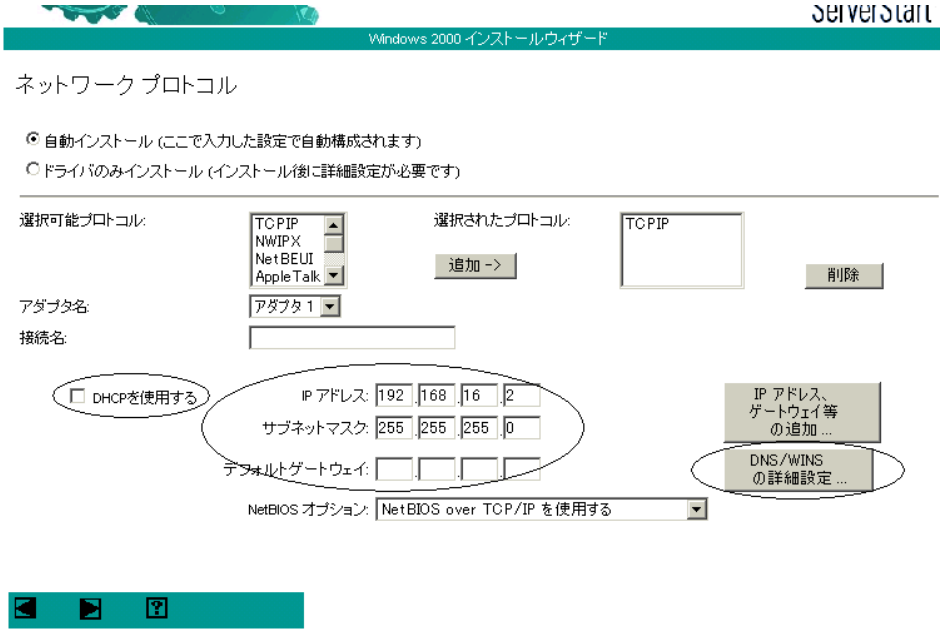
### ■「コンピュータ識別情報」画面

***1*** 「参加先」を「ワークグループ」にし、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。

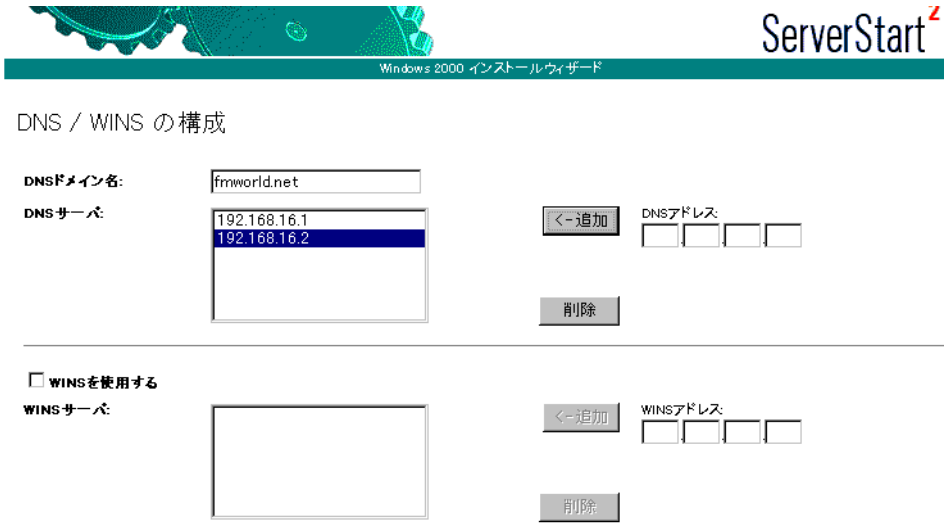


## ■「ネットワークプロトコル」画面

**1** 「DHCP を使用する」のチェックを外し、IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを指定します。




**2** ［DNS/WINS の詳細設定］をクリックし、DNS に関して詳細設定を行います。




「DNS ドメイン名」に、作成するツリーのドメイン名（この例では fmworld.net）を指定します。
「DNS サーバ」には、次のアドレスを入力します。
・既存フォレストの DNS サーバ（ドメインサーバ）の IP アドレス
・新規作成ツリーのドメインの IP アドレス

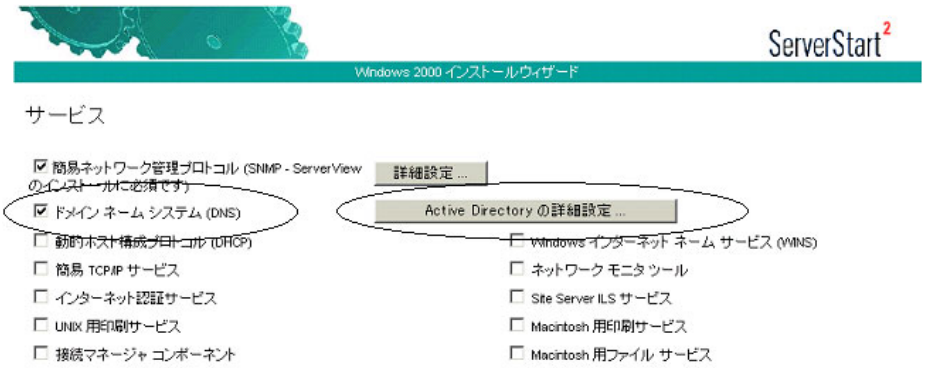
## ■「サービス」画面

POINT

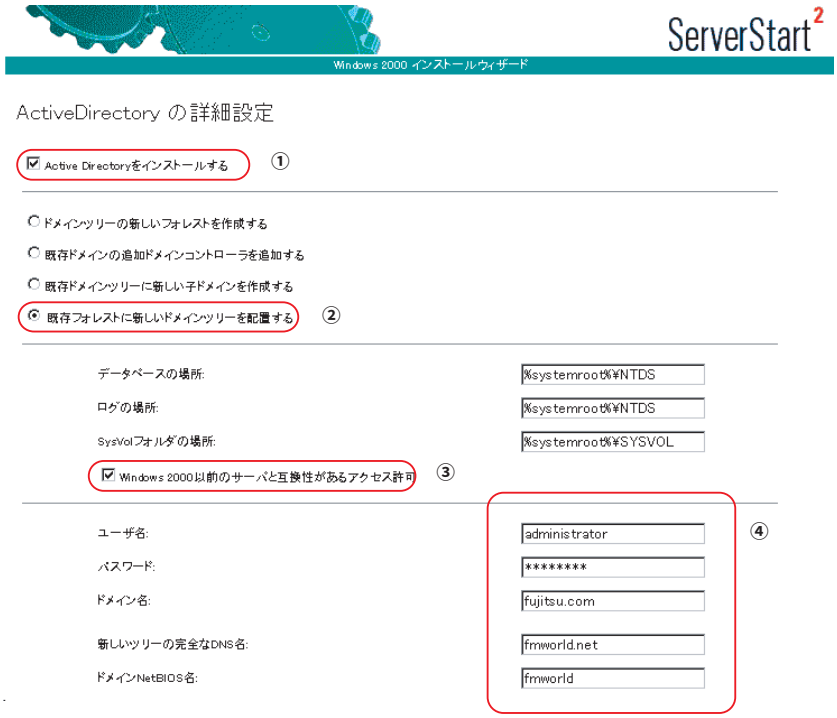
- OS インストールタイプの開封時は、「サービス」は設定できません。

**1** 「ドメインネームシステム（DNS）」にチェックを付け、［Active Directory の詳細設定］をクリックします。

WINS を設定した場合は、「Windows インターネットネームサービス（WINS）」にチェックを付けます。




**2** 各項目を以下のように設定します。




1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する」を選択します。

3. Windows 2000 以前のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。
4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| ユーザ名 | 上位ドメインでコンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント<br>（例：Domain Admin のユーザ） |
| パスワード | 上位のユーザのパスワード |
| ドメイン名 | 上位のユーザが所属しているドメイン |
| 新しいツリーの完全なドメイン名 | 新規に作成するツリーのドメイン名 |
| ドメイン NetBIOS 名 | 新規に作成するドメイン NetBIOS 名 |

# 1.4　Active Directory ー追加ドメインコントローラの構築

**新しいドメインコントローラが追加された場合は、システムの信頼性と冗長性を重要視します。**

ここでは、新しいドメインコントローラが追加された場合の設定について説明します。あらかじめ次の情報を確認してください。

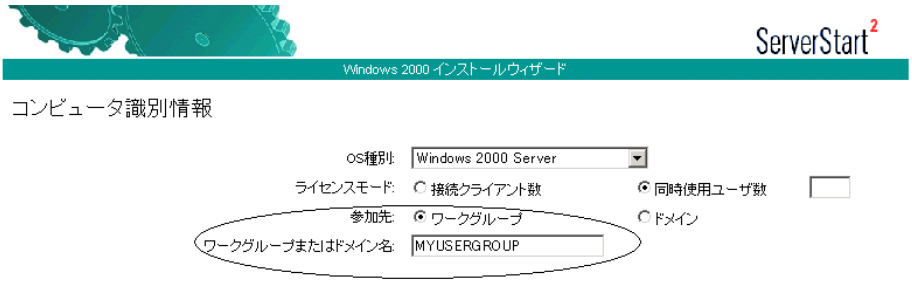
- 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- 既存ルートドメインの管理者情報
- 新規ドメインコントローラのネットワークアドレス

## 1.4.1　追加ドメインコントローラ構築時の設定方法

追加ドメインコントローラを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

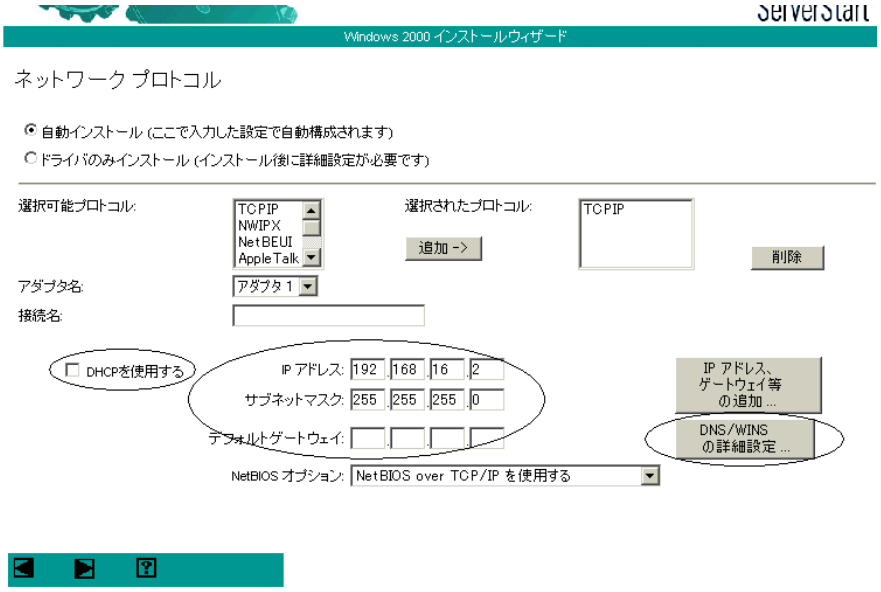
### ■「コンピュータ識別情報」画面

***1*** 「参加先」を「ワークグループ」にし、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。



## ■「ネットワークプロトコル」画面

**1** 「DHCP を使用する」のチェックを外し、IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを入力します。




**2** ［DNS/WINS の詳細設定］をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。

この例では、「DNS ドメイン名」に既存ドメイン名（この場合は fujitsu.com）を指定します。

「DNS サーバ」に次のアドレスを入力します。

・既存 DNS サーバの IP アドレス

・新規作成ドメインコントローラの IP アドレス

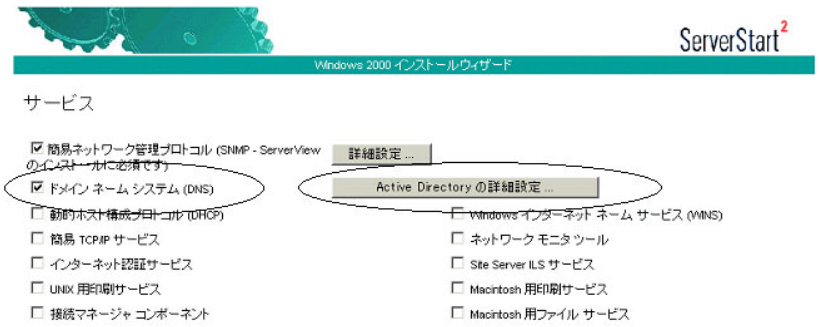
## ■「サービス」画面

**POINT**

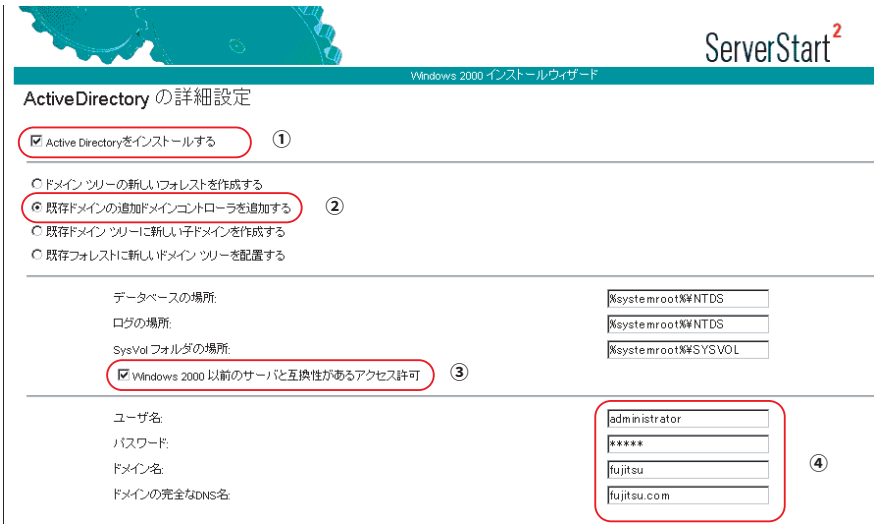
- OS インストールタイプの開封時は、「サービス」は設定できません。

**1** 「ドメインネームシステム（DNS）」にチェックを付け、［Active Directory の詳細設定］をクリックします。

WINS を設定した場合は、「Windows インターネットネームサービス（WINS）」のインストールにもチェックを付ける必要があります。




**2** 各項目を以下のように設定します。




1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する」を選択します。
3. Windows 2000 以前のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。

4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| ユーザ名 | 上位ドメインでコンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント<br>（例：Domain Admin のユーザ） |
| パスワード | 上位のユーザのパスワード |
| ドメイン名 | 上位のユーザが所属しているドメイン NetBIOS 名 |
| ドメインの完全な DNS 名 | 上位のユーザが所属しているドメイン名 |

# 1.5　Active Directory ー子ドメインの構築

子ドメインの構築方法について説明します。

## 1.5.1　子ドメインを構築する前に

子メンバドメインが構成されるのは、新しい下部組織が構成される場合です。
これは、新しいツリーの構成とよく似ていますが、子ドメインが上位のフォレストから DNS サフィックスを継承するのに対し、新ツリーはこれを継承しません。
次のような事例の場合、最初に対応するドメインパターンを選択します。

| 事例 | 選択するドメインパターン |
|---|---|
| ABC カンパニーに新たにコンサルティング部署が設立された。 | 子ドメイン |
| ABC カンパニーからコンサルティング部署が独立し、ABC コンサルティングカンパニーが設立された。 | 新ツリー |

子ドメインを構築する前に、あらかじめ次の情報を確認してください。

- 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- 既存ルートドメインの管理者情報
- 新規ドメインコントローラのネットワークアドレス

**重要**

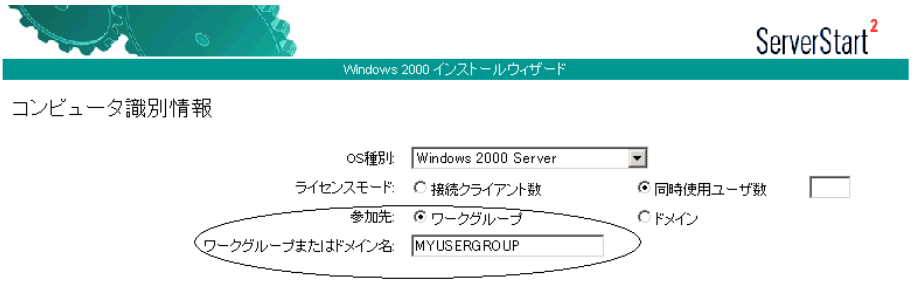
- 子ドメインを作成する場合、DNS サーバで、あらかじめ新しいドメインのゾーンを作成しておく必要があります。「1.3.2 DNS ゾーンの作成」（→ P.14）を参照してください。

## 1.5.2　子ドメイン構築時の設定方法

子ドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

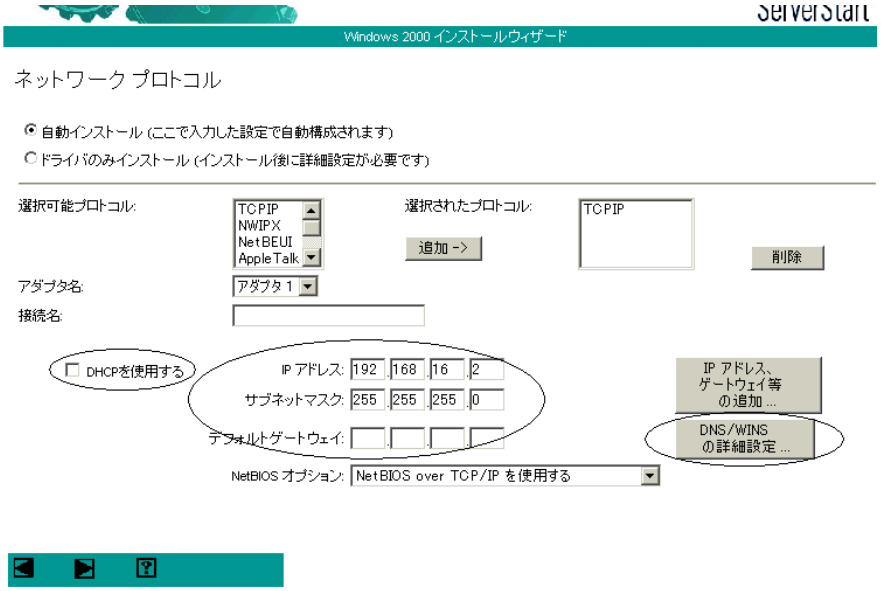
### ■「コンピュータ識別情報」画面

*1*　「参加先」を「ワークグループ」にして、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。

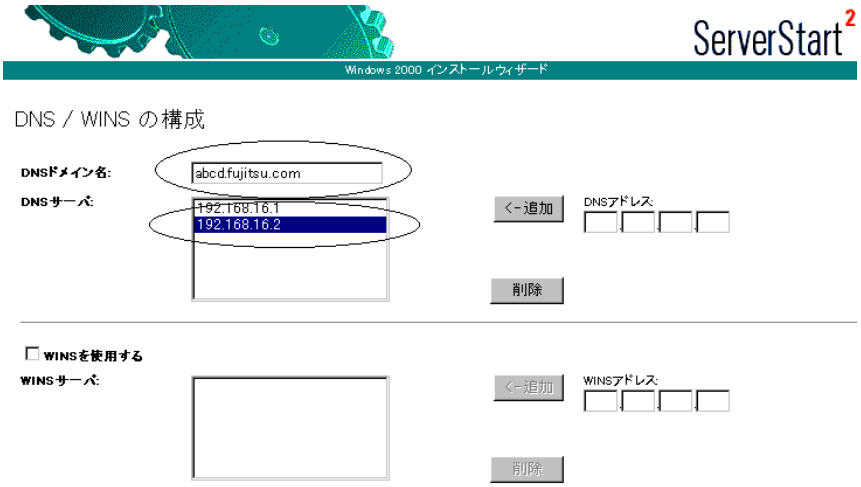


## ■「ネットワークプロトコル」画面

**1** 「DHCP を使用する」のチェックを外し、IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを入力します。




**2** ［DNS/WINS の詳細設定］をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。




「DNS ドメイン名」に、作成する子ドメイン名（この例では abcd.fujitsu.com）を指定します。

「DNS サーバ」に、次のアドレスを入力します。

・既存 DNS サーバの IP アドレス

・子ドメインのドメインコントローラサーバの IP アドレス

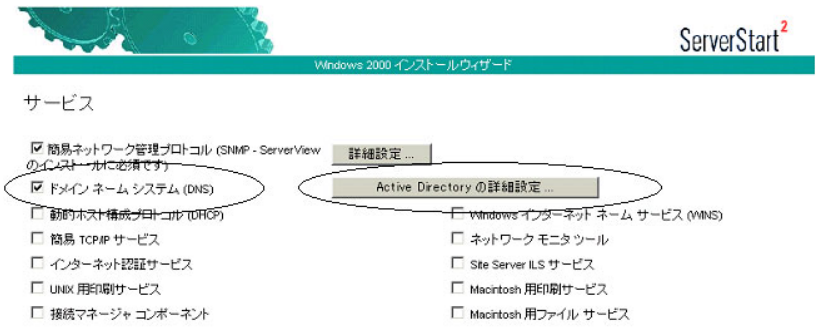
## ■「サービス」画面

**POINT**

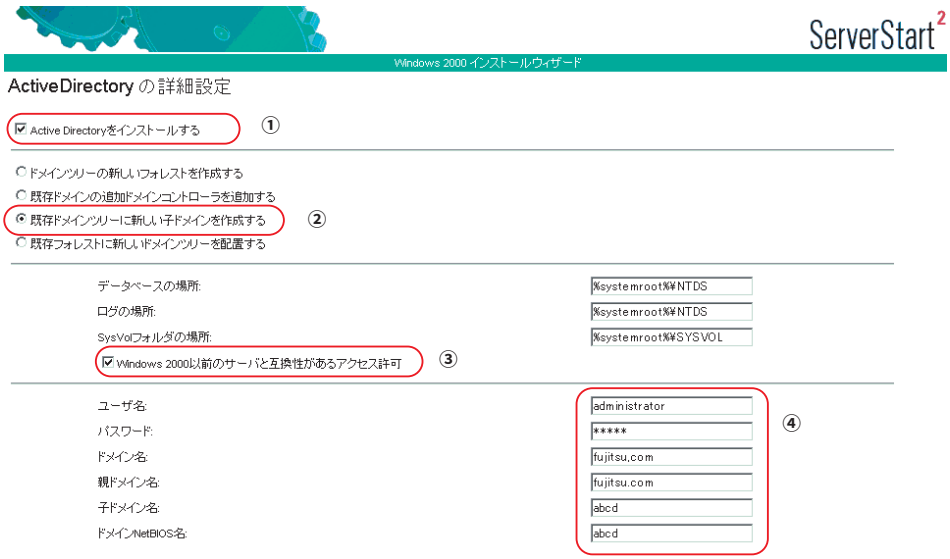
- OS インストールタイプの開封時は、「サービス」は設定できません。

**1** 「ドメインネームシステム（DNS）」にチェックを付け、［Active Directory の詳細設定］をクリックします。

WINS を設定した場合、「Windows インターネットネームサービス（WINS）」にチェックを付けます。




**2** 各項目を以下のように設定します。




1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「既存ドメインツリーに新しい子ドメインを作成する」を選択します。
3. Windows 2000 以前のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。

4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| ユーザ名 | 上位ドメインで、コンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント<br>（例：Domain Admin のユーザ） |
| パスワード | 上位のユーザのパスワード |
| ドメイン名 | 上位のユーザが所属しているドメイン名 |
| 親ドメイン名 | 上位のドメイン名 |
| 子ドメイン名 | 新規に作成するドメイン名 |
| ドメイン NetBIOS 名 | 新規に作成するドメイン NetBIOS 名 |

# 1.6　ドメインメンバサーバの構成

ドメインメンバサーバを構築するときの設定について説明します。

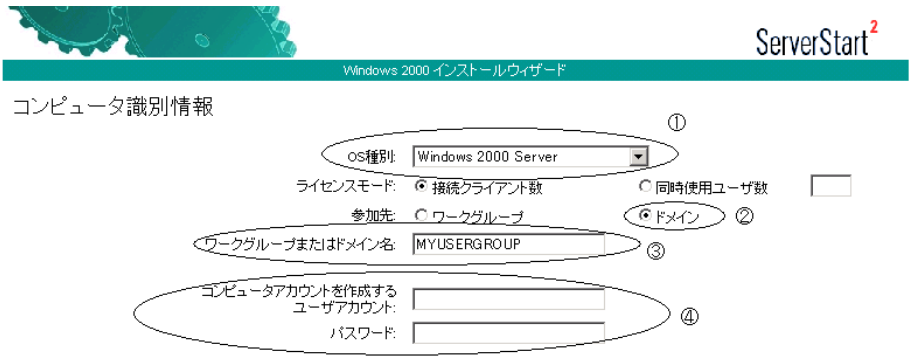
## 1.6.1　ドメインメンバサーバ構築時の設定

ドメインメンバサーバを構築する場合は、以下の設定を行います。

- コンピュータアカウントの作成
  Windows 2000 ドメインの場合、ドメインコントローラ上で参加するコンピュータアカウントを作成します。コンピュータアカウントの作成の際には、コンピュータ名をあらかじめ決めておく必要があります。OS インストールウィザードの「コンピュータ識別情報」画面で設定します。
- ネットワークプロトコルの設定
  ネットワークプロトコル設定で、DHCP を指定する場合と、固定 IP アドレスを指定する場合で、設定が異なります。
  DHCP を使って IP アドレスをリースする場合は、DHCP サーバのサーバオプションに DNS サーバの情報を設定し、DNS へサーバ登録を行ってください。

### ■「コンピュータ識別情報」画面

***1*** 各項目を以下のように設定します。




1.「OS 種別」でインストールする OS のタイプを選択します。
2.「参加先」の指定で「ドメイン」を選択します。
3.「ワークグループまたはドメイン名」に参加するドメインを指定します。
4.「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」にコンピュータアカウントを作成する権限のあるドメインユーザアカウントとパスワードを指定します。

**POINT**

- あらかじめドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合は、手順 4 でコンピュータアカウントを作成する権限のないドメインユーザを指定することができます。

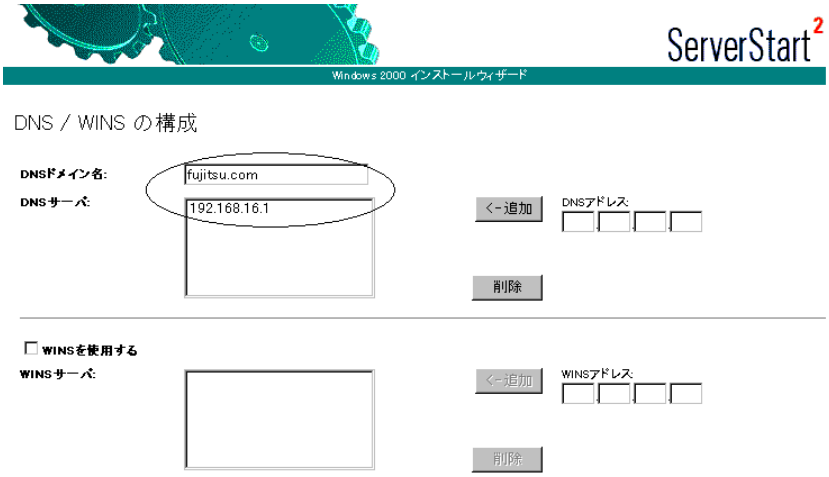
## ■ DNS ／ WINS の設定について

### ● ネットワークプロトコル設定で DHCP を指定する場合

参加先ドメインに DHCP が構成されており、DHCP サーバオプションで「DNS サーバ」が正しく設定されていることを確認してください。

### ● ネットワークプロトコル設定で固定 IP を指定する場合

***1*** 「ネットワーク設定」画面の［DNS/WINS の詳細設定］をクリックし、DNS ドメイン名と DNS サーバの指定を行います。



# 1.7　スタンドアロンサーバの構成

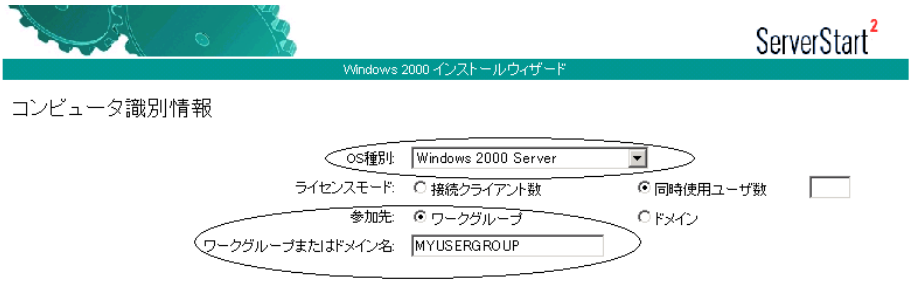
スタンドアロンサーバ構築時の設定について説明します。

## ● スタンドアロンサーバの特長

スタンドアロンサーバは、小規模な環境で利用するためのサーバです。このため、リソースにアクセスできる範囲が限定されるなどの制限があります。また、ネットワーク経由でスタンドアロンサーバのリソースにアクセスする場合、スタンドアロンサーバのローカルユーザ情報を参照するので、管理性が低いという特徴があります。インストールするサーバがどのタスクを担うか早期に決定し、ドメインへ移行することをお勧めします。

## ■「コンピュータ識別情報」画面

***1*** 各項目を以下のように設定します。




1.「OS 種別」でインストールする OS のタイプを選択します。
2.「参加先」の指定で「ワークグループ」を選択します。
3.「ワークグループまたはドメイン名」に参加するワークグループ名を指定します。

**重要**

- Active Directory の詳細設定画面では、何も設定しないでください。

# 第 2 章

# WizardConsole

この章では、WizardConsole を使用したネットワークアカウントの設定方法や、クライアントへのインストール方法について説明しています。

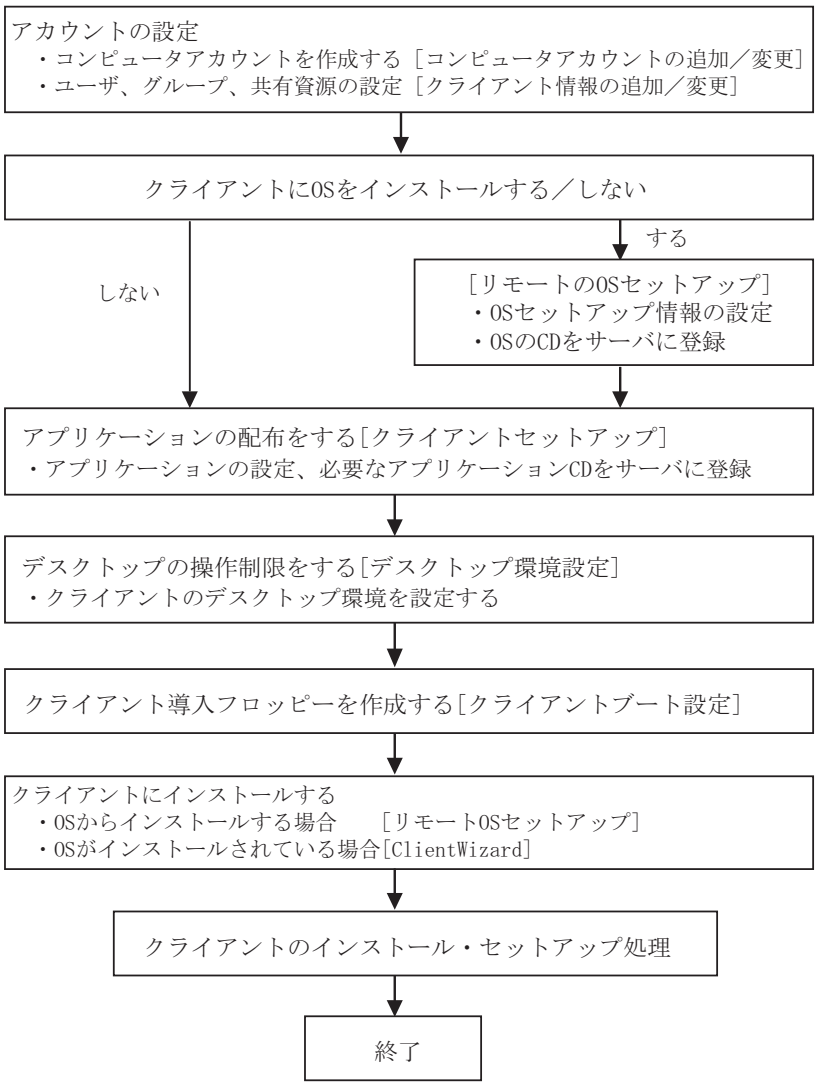

2.1 概要 . . . . . 32
2.2 クライアントコンピュータの追加／変更 . . . . . 37
2.3 ユーザ、グループ、共有資源の 追加／変更 . . . . . 42
2.4 リモート OS セットアップ . . . . . 50
2.5 クライアントセットアップ . . . . . 54
2.6 デスクトップ環境設定 . . . . . 63
2.7 クライアントブート設定 . . . . . 69
2.8 クライアントへのインストール . . . . . 74
2.9 変更した情報の登録 . . . . . 79
2.10 WizardConsole 使用時の留意事項 . . . . . 80
2.11 WizardMenu によるデスクトップメニューの作成 . . . . . 86
2.12 WizardConsole のアンインストール . . . . . 90

# 2.1　概要

ここでは、WizardConsole を使用したクライアントセットアップの方法や、WizardConsole の機能など、概要について説明します。

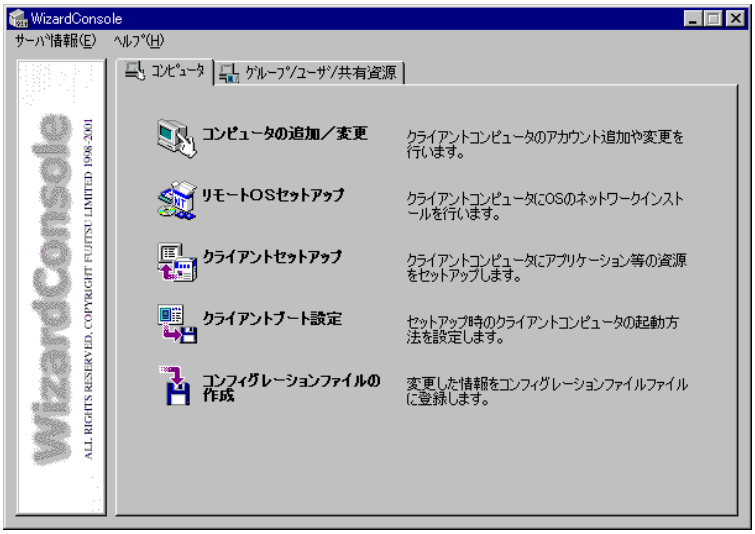
## 2.1.1　クライアントコンピュータのセットアップ操作の流れ

WizardConsole を使用したクライアントコンピュータのセットアップは、以下の流れで行います。[] 内は使用する機能名を示します。



## 2.1.2 WizardConsole の各機能

*1* 「スタート」ボタン→「ServerStart」→「WizardConsole」の順にクリックします。
WizardConsole が起動します。




### ■［コンピュータ］タブ

#### ● コンピュータの追加／変更

ネットワーク環境を構築するためのコンピュータアカウントを登録します。
OS 種別が同じクライアントコンピュータを、一括して大量に登録することもできます。

#### ● リモート OS セットアップ

OS をインストールしていないクライアントコンピュータに、OS のインストールを行う機能です。OS のインストールだけでなく、セットアップ、アプリケーションのインストールまでを行うことができます。

#### ● クライアントセットアップ

クライアントに同一アプリケーションや、同一ファイルのインストールを行うための設定です。ここで設定したアプリケーションなどは、クライアントがサーバにログオンすると自動的にインストールされます。それぞれのクライアントへインストールする作業が軽減できます。

#### ● クライアントブート設定

クライアントをセットアップするときに使用するクライアント起動用フロッピーディスクを作成します。

### ● コンフィグレーションファイルの作成

WizardConsole で追加、変更した設定情報を、フロッピーディスクまたはハードディスクに保存します。

## ■［グループ／ユーザ／共有資源］タブ

### ● クライアント情報の追加／変更

ユーザの追加、グループの追加、共有資源の設定など、ネットワークに必要なアカウントを作成したり、変更する機能です。設定したアカウントは一覧で表示され、関連付けも簡単です。

### ● デスクトップ環境設定

クライアントのデスクトップの表示状態を設定できます。たとえば、業務に必要な機能のみを表示させたり、スタートメニューなどを設定することができます。

# 2.1.3　各 OS 環境における利用可能な機能

## ■ 各機能と使用可能な OS 種別

クライアントの個別セットアップには、リモート OS セットアップ、クライアントセットアップ、デスクトップ環境設定機能がありますが、ご使用になる OS とネットワーク環境によっては使用できない機能があります。各機能における使用可能 OS とネットワークの関係は以下のとおりです。

| OS | ネットワークタイプ | WizardConsole の機能 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | リモート OS セットアップ | クライアントセットアップ | デスクトップ環境設定 |
| Windows 2000 Server | ドメインコントローラ | × | × | × |
| | メンバサーバ | × | × | ○ |
| Windows 2000 Professional | ドメインメンバ | ○ | ○ | ○ |
| Windows XP Professional | ドメインメンバ | × | ○ | ○ |
| Windows Me | ドメインメンバ | × | ○ | × |

## 2.1.4 WizardConsole を利用するための準備

### ■ クライアント側の準備

#### ● ハードウェアのセットアップ

本体ハードウェアマニュアルをよく読み、コンピュータを正しく設置してください。
LAN カードを搭載し、サーバと接続できる状態にしておきます。
接続方法など、詳しくはご使用の各装置に添付のマニュアルを参照してください。
クライアントコンピュータに複数の LAN カードが搭載されていた場合、サーバに正常に接続できない場合があります。LAN カードの搭載は 1 つのみにしてください。

#### ● ソフトウェアの準備

- MS-DOS

  リモート OS セットアップを使用する場合には、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクが必要になります。MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクは、以下の方法により作成してください。

  ・FD バックアップコマンドを使用する

  クライアントコンピュータに添付のドライバーズ CD-ROM から FD バックアップコマンドを使用して作成できます。

  FD バックアップコマンドの使用方法に関しては、クライアントコンピュータに添付のマニュアルを参照してください。

**重要**

▸ どの方法による作成でも、必ず使用するクライアント台数分のライセンスが必要となります。ご契約の内容を確認して作成してください。

- MS-DOS® LAN マネージャ

  以下の MS-DOS® LAN マネージャのファイルが必要です。

  Protman.dos ／ Protman.exe ／ Netbind.com

  次の方法で入手してください。

  ・Microsoft の Web サイトから "DSK3-1.EXE" をダウンロードする。

  ftp://ftp.microsoft.com/bussys/clients/msclient/

**重要**

▸ Web サイトからダウンロードした場合は、ファイルが圧縮されています。次の手順でファイルを展開してください。

1. "DSK3-1.EXE" を実行します。
2. Expand コマンドでファイルを展開します。

   例）c:¥temp に DSK3-1.EXE を展開した場合

   Expand c:¥temp¥protman.do_ /r 【Enter】

   Expand c:¥temp¥protman.ex_ /r 【Enter】

## ■ ネットワーク環境の設定

WizardConsole をご使用いただくには、以下のネットワーク設定が必要です。

### ● TCP/IP プロトコルの設定

WizardConsole をインストールするコンピュータには、TCP/IP プロトコルが必要です。
あらかじめ TCP/IP プロトコルのインストールおよび設定を行ってください。
また、WizardConsole をインストールしたコンピュータには、固定の IP アドレスを設定するようにしてください。詳しい IP アドレスの設定方法は各 OS のマニュアルを参照してください。

### ● 複数セグメントを含んだネットワークでの留意点

ルータと複数のセグメントを含んだ TCP/IP ネットワークで、WizardConsole をご利用になる場合、以下の注意が必要です。

- コンピュータの追加／変更
  コンピュータの追加／変更で、クライアントコンピュータの設定を行う際、各セグメントに所属するクライアントコンピュータごとに、適切なデフォルトゲートウェイを指定してください。デフォルトゲートウェイを指定しない場合、クライアントセットアップが正常に利用できなくなります。
  例）セグメント 1 のゲートウェイアドレスが 192.168.1.1、セグメント 2 のゲートウェイアドレスが 192.168.2.1 の場合
  セグメント 1 に含まれるクライアントコンピュータアカウントのデフォルトゲートウェイアドレスは 192.168.1.1 に、セグメント 2 に含まれるクライアントコンピュータアカウントのデフォルトゲートウェイアドレスは 192.168.2.1 を指定する必要があります。
- クライアントセットアップ
  ドメインコントローラが存在しないセグメントに含まれるクライアントコンピュータがドメインに参加するためには、WINS を使用するか、LMHOSTS ファイルにドメインコントローラの IP アドレスを記述してください。
  WINS または、LMHOSTS の設定方法は、ネットワーク管理者にご相談ください。

### ● クライアントコンピュータの設定

インストールタイプなどで、すでに OS がインストール済みのコンピュータに対してクライアントセットアップを行う場合は、あらかじめ「TCP/IP プロトコル」、「Microsoft ネットワーククライアントサービス」（Windows Me の場合）を設定しておく必要があります。各 OS のマニュアルを参照して、インストールおよび設定を行ってください。

# 2.2　クライアントコンピュータの追加／変更

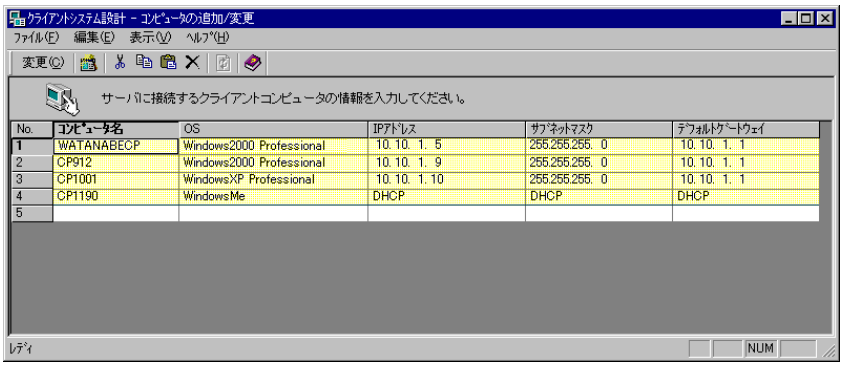
WizardConsole で管理するクライアントコンピュータを登録します。

コンピュータの登録方法には、次の 3 つの方法があります。

- 登録済みのコンピュータ情報を変更する場合、または個別の情報を持つクライアントコンピュータを追加する場合は、「2.2.1 コンピュータの追加／変更」（→ P.39）を行ってください。
- WizardConsole をインストールする前に、すでにコンピュータを登録している場合は、「2.2.2 コンピュータ情報の取得」（→ P.40）を行ってください。
- OS 種別が同じクライアントコンピュータを大量に一括登録する場合は、「2.2.3 コンピュータの一括導入」（→ P.40）を行ってください。

**1**　「WizardConsole」画面で［コンピュータ］タブを選択し、［コンピュータの追加／変更］をクリックします。

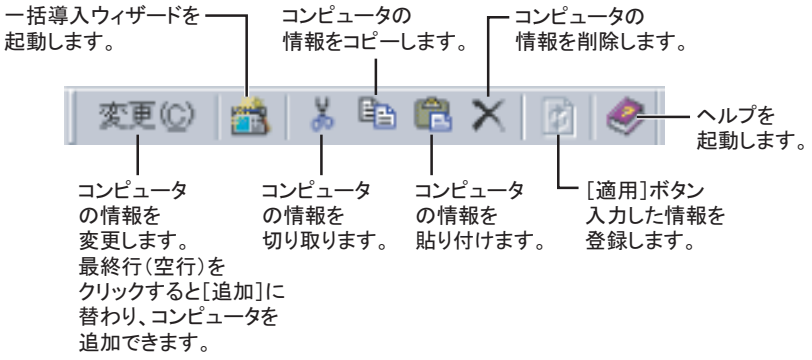
「クライアントシステム設計－コンピュータの追加／変更」画面が表示されます。




**重要**

- 背景が黄色で表示されているアカウントは、すでに登録済みであることを表します。
- 登録済みのアカウントを変更する場合は［変更］をクリックし、表示された画面で修正を行ってください。変更内容は即時に反映されますので、情報を変更する場合は十分注意してください。

## ■「クライアントシステム設計－コンピュータの追加／変更」画面のツールバー




## ■「クライアントシステム設計－コンピュータの追加／変更」画面の説明

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| コンピュータ名 | WizardConsole で管理しているコンピュータ名が表示されます。 |
| OS | OS の種類が表示されます。 |
| IP アドレス | 設定されている IP アドレスが表示されます。 |
| サブネットマスク | 設定されているサブネットマスクが表示されます。 |
| デフォルトゲートウェイ | 設定されているデフォルトゲートウェイが表示されます。 |

## ■「クライアントシステム設計－コンピュータの追加／変更」画面のメニュー

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| 「ファイル」メニュー | |
| コンピュータの取込み | コンピュータ情報を取り込みます。 |
| CSV ファイル | あらかじめ複数のコンピュータの情報を CSV 形式で記述してファイルを作成しておき、まとめてコンピュータを登録できます。<br>CSV ファイルの記述方法については、「2.10.4 CSV ファイルフォーマットについて」（→ P.84）を参照してください。 |
| コンピュータ情報の取得 | ネットワーク上でドメインメンバとして動作中のコンピュータ情報を取得します。ツールバーまたはメニューの「適用」が有効な場合は選択できません。 |
| CSV ファイル出力 | 登録されているコンピュータ情報を CSV 形式のファイルに書き出します。 |
| 導入ウィザード | 同じ OS 種別のコンピュータを大量に一括して登録します。 |
| アプリケーションの終了 | クライアントシステム設計を終了します。 |
| 「編集」メニュー | |
| 切り取り | 選択したコンピュータ情報を切り取り、クリップボードに保存します。 |
| コピー | 選択したコンピュータ情報を、クリップボードに保存します。 |
| 貼り付け | クリップボードに保存された内容を、貼り付けます。 |
| 削除 | 削除するコンピュータを選択し、登録済みのコンピュータを削除します。 |
| 適用 | 入力した情報を登録します。 |

**重要**

- Windows 2000 Server の「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用してコンピュータを追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を正常に反映できないことがあります。
- クライアントコンピュータの追加を行った場合、追加したクライアントにアプリケーションやファイルをインストールするには、「クライアントセットアップ」画面から次のいずれかを行ってください。
  - ・セットアップ資源がまだ取り込まれていない場合は、「セットアップ資源の取り込み」画面からセットアップ資源の取り込みを行ってください。
  - ・セットアップ資源がすでに取り込まれている場合は、「登録済みセットアップ一覧」からセットアップ資源を選択して、「クライアント一覧」の追加したクライアントを選択状態にしてください。



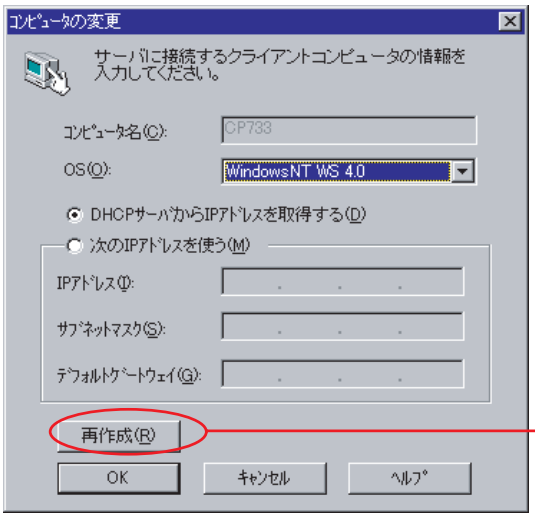
## 2.2.1　コンピュータの追加／変更

登録済みのコンピュータの情報を変更したり、新規にコンピュータを追加します。

**1**　**変更するコンピュータの欄をクリックし、［変更］をクリックします。**
**新規にコンピュータを追加する場合は、最終行（空行）をクリックして［追加］をクリックします。**

コンピュータは 2048 件まで登録できます。

「コンピュータの変更」画面が表示されます（追加時も同様の画面が表示されます）。




［再作成］は、変更画面でOSにWindows 2000 Professional、Windows XP Professionalを指定した場合に表示されます。

**2**　**コンピュータの情報を設定します。**

各項目の詳細説明については、［ヘルプ］をクリックして参照してください。

**3**　**［OK］をクリックします。**

コンピュータ情報が変更、または追加されます。

## 2.2.2　コンピュータ情報の取得

WizardConsole をインストールする前にクライアントコンピュータを登録している場合、登録されているクライアントコンピュータの情報を、WizardConsole に取り込みます。

**1**　**「ファイル」メニューから「コンピュータの取込み」→「コンピュータ情報の取得」の順に選択します。**
「コンピュータ一覧」画面が表示されます。すでにクライアントシステム設計に登録されているコンピュータは、グレー表示されます。

**2**　**登録するコンピュータを選択します。**
すべてのコンピュータを登録する場合は［全て選択］をクリックします。

**3**　**［登録］をクリックします。**
選択したコンピュータの情報が取り込まれ、一覧に追加されます。

**重要**

- ［コンピュータ情報の取得］で取り込まれたサブネットマスク、デフォルトゲートウェイは、起動しているマシンから取得されます。必要に応じて値を変更してください。
- DHCP 起動のコンピュータの場合、割り当てられた IP アドレスが表示されますので、登録後、IP アドレスを DHCP に変更してください。
- IP アドレスが「不明」と表示される場合は、以下の問題が考えられます。
  ・取得されたコンピュータに TCP/IP プロトコルがインストールされていない。
  　このコンピュータを選択しないか、TCP/IP プロトコルをインストールしてください。
- DNS に登録されているホスト名と実際のコンピュータ名が異なっている。
  正しい値に変更してください。

## 2.2.3　コンピュータの一括導入

OS 種別が同じクライアントの場合は、一括で大量のクライアントコンピュータを登録できます。一括導入は、ウィザードに従って設定を行います。
コンピュータ名、IP アドレスは任意の文字列に連番で取得されます。導入後、必要に応じて変更してください。

**重要**

- 一括導入ウィザードでコンピュータを作成する場合、次の制限があります。
  IP アドレス設定を選択した場合は、開始アドレス xx.xx.xx.nn の 255 －（nn － 1）台まで（例：開始アドレスが 10.10.1.11 の場合、255 －（11 － 1）＝ 245 台まで）作成できます。DHCP アドレスを選択した場合は、最大 2048 台まで作成できます。登録中にクライアント登録数が 2048 台になった時点で作成を終了します。

**1** **「ファイル」メニューから「導入ウィザード」を選択します。**

一括導入ウィザードが表示されます。
ウィザードに従って操作を行ってください。
確認画面で［完了］をクリックすると、指定した台数分のクライアントコンピュータが追加されます。この状態ではまだ登録は行われていません（背景が白色）。設定を変更する場合は、必要に応じて設定を変更後［適用］をクリックしてください。
コンピュータが登録されます（背景が黄色）。

## 2.2.4　コンピュータの削除

必要のないコンピュータを、登録から削除します。

**1** **削除するコンピュータを選択します。複数のコンピュータを選択できます。**

**2** **「編集」メニューから「削除」を選択します。**

選択したコンピュータが一覧から削除されます。

# 2.3 ユーザ、グループ、共有資源の追加／変更

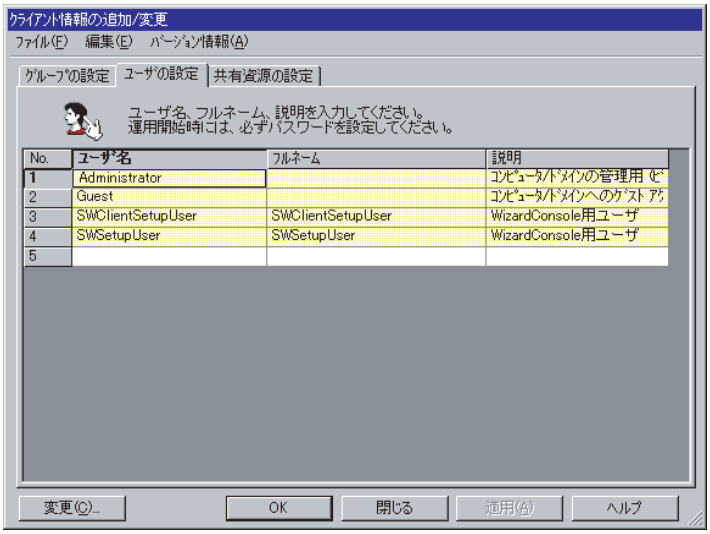
ユーザ、グループ、共有資源の設定を行います。

**重要**

- 背景が黄色で表示されているアカウントは、すでに登録済みであることを表します。
  登録済みのアカウントを変更する場合は［変更］をクリックし、修正してください。変更内容は即時に反映されますので、情報を変更する場合は十分注意してください。
- 背景が白色で表示されているアカウントは、［適用］または［OK］をクリックすると登録されます。

**1** 「WizardConsole」画面で［グループ／ユーザ／共有資源］タブを選択し、［クライアント情報の追加／変更］をクリックします。

「クライアント情報の追加／変更」画面が表示され、［ユーザの設定］タブ画面が表示されます。各タブをクリックすると［グループの設定］タブ画面、［共有資源の設定］タブ画面に切り替わります。




**2** 各タブをクリックして設定します。

**POINT**

- あらかじめ登録するユーザの情報、グループ情報、共有資源情報を、それぞれ CSV 形式で記述してファイルを作成しておくと、「ファイル」メニューから「CSV ファイル取込み」を選択して、まとめて登録できます。
  また、登録したユーザの情報は、「ファイル」メニューから「CSV ファイル出力」を選択して、CSV 形式のファイルに書き出せます。
  CSV ファイルの記述方法については、「2.10.4 CSV ファイルフォーマットについて」（→ P.84）を参照してください。

## 2.3.1 ユーザの追加／変更

ユーザアカウントの追加、および情報の変更を行います。
［ユーザの設定］タブが表示されていることを確認してください。

**1** **ユーザの情報を設定します。**

新規にユーザを追加する場合は、入力する欄をクリックし、直接入力するか［追加］をクリックします。2048 件まで設定できます。
「ユーザの追加」画面が表示されます。

**2** **追加するユーザの情報を設定し、［追加］をクリックします。**

ユーザが追加されます。追加するユーザの情報を続けて設定できます。

**3** **すべてのユーザの追加が終わったら、［閉じる］をクリックします。**

「クライアント情報の追加／変更」画面に戻ります。

**POINT**

- **ユーザ情報の変更**
  変更するユーザを選択して［変更］をクリックするか、変更するユーザをダブルクリックします。
  「ユーザの変更」画面が表示されます。設定を変更し［OK］をクリックします。
- **ユーザの削除**
  削除するユーザを右クリックし［削除］を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

**重要**

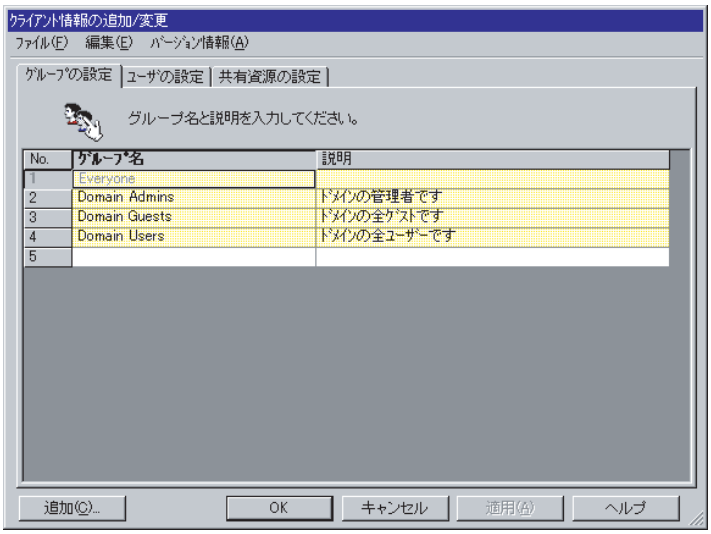
- **Windows 2000 Server の「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用してユーザを追加、変更した場合、2048 件以上の情報を正常に反映できない場合があります。**

## 2.3.2 グループの追加／変更

グループの追加、および登録済みグループの情報を変更します。

**1** ［グループの設定］タブをクリックします。

［グループの設定］タブ画面が表示されます。




**2** グループの情報を設定します。

新規にグループを追加する場合は［追加］をクリックします。2048 件まで設定できます。

「グループの追加」画面が表示されます。

**3** 追加するグループの情報を設定し、［追加］をクリックします。

グループが追加されます。追加するグループを続けて設定できます。

**4** すべてのグループの追加が終わったら、［閉じる］をクリックします。

「クライアント情報の追加／変更」画面に戻ります。

**POINT**

- グループ情報の変更

  変更するグループを選択して［変更］をクリックするか、変更するグループをダブルクリックします。「グループの変更」画面が表示されます。設定を変更し［OK］をクリックします。
- グループの削除

  削除するグループを右クリックし、［削除］を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

**重要**

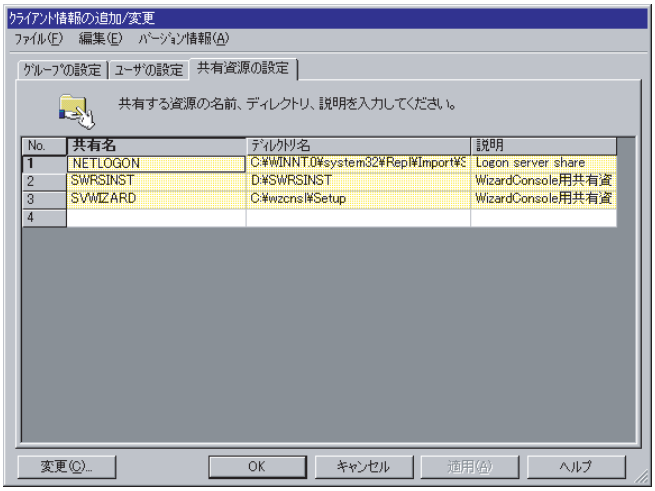
- Windows 2000 Server の「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用してグループを追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を、正常に反映できないことがあります。

## 2.3.3 共有資源フォルダの追加／変更

共有資源フォルダの追加、および登録済み共有フォルダの情報を変更します。

**1** ［共有資源の設定］タブをクリックします。

［共有資源の設定］タブ画面が表示されます。




**2** 共有資源の情報を設定します。

新規にグループを追加する場合は、入力する欄をクリックし、直接入力するか［追加］をクリックします。2048 件まで設定できます。

「共有資源の追加」画面が表示されます。

**3** 追加する共有資源の情報を設定し、［追加］をクリックします。

共有資源が追加されます。続けて追加する共有資源を設定できます。

**4** すべての共有資源の追加が終わったら［閉じる］をクリックします。

「クライアント情報の追加／変更」画面に戻ります。

**POINT**

- 共有資源情報を変更する
  変更する共有資源を選択して［変更］をクリックするか、変更する共有資源をダブルクリックします。「共有資源の変更」画面が表示されます。設定を変更し［OK］をクリックします。
- 共有資源を削除する
  削除する共有資源を右クリックし、［削除］を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

**重要**

- 共有資源の"SVWIZARD"とユーザ名の"SWClientSetupUser"は、WizardConsoleでクライアントコンピュータの登録に使用するために作成されます。
  登録中は、この共有資源を削除したり、アクセス権の変更、ユーザのパスワード変更などを行わないでください。
  インターネット等の他のネットワークに接続しているサーバでは、セキュリティ確保のため、ClientWizard ですべてのクライアントに登録が終了したら削除してください。
- デスクトップ設計をお使いになる場合は、共有資源を削除しないでください。
- 32 件以上の共有資源を登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには 32 件までしか登録できません。
- Windows 2000 Server の「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用して共有資源を追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を正常に反映できないことがあります。

続いてユーザ、グループ、共有資源の関連付けの操作を行います。

## 2.3.4 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け

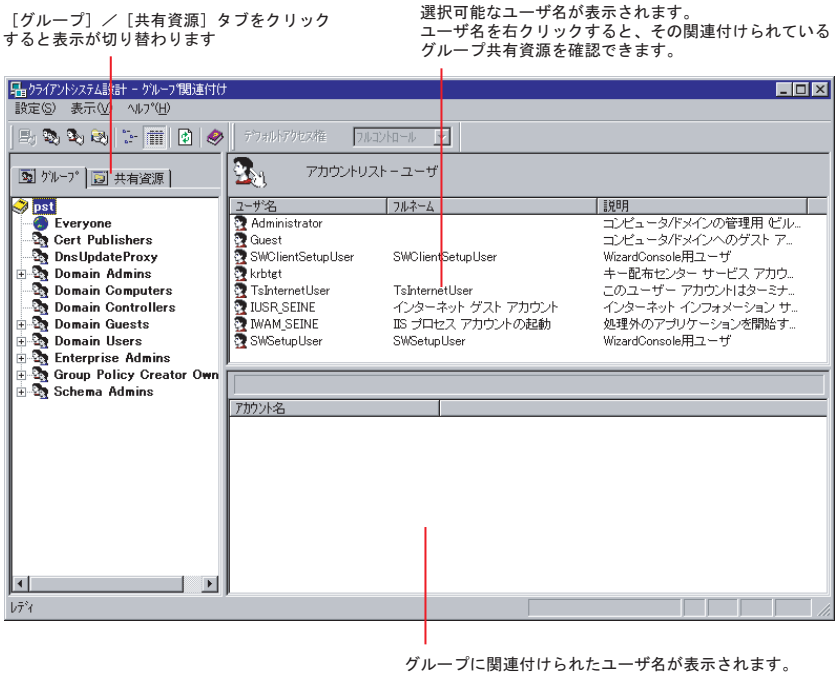
登録済みのユーザ、グループ、共有資源の関連付けを行います。

***1*** **「クライアント情報の追加／変更」画面で［OK］をクリックします。**

「追加変更」画面が閉じて、「クライアントシステム設計」画面が表示されます。
ユーザのグループ構成、およびユーザ／グループ単位で使用できる共有資源の関連付けを行います。

## ■ ユーザの所属グループ設定

ユーザをグループに関連付けます。



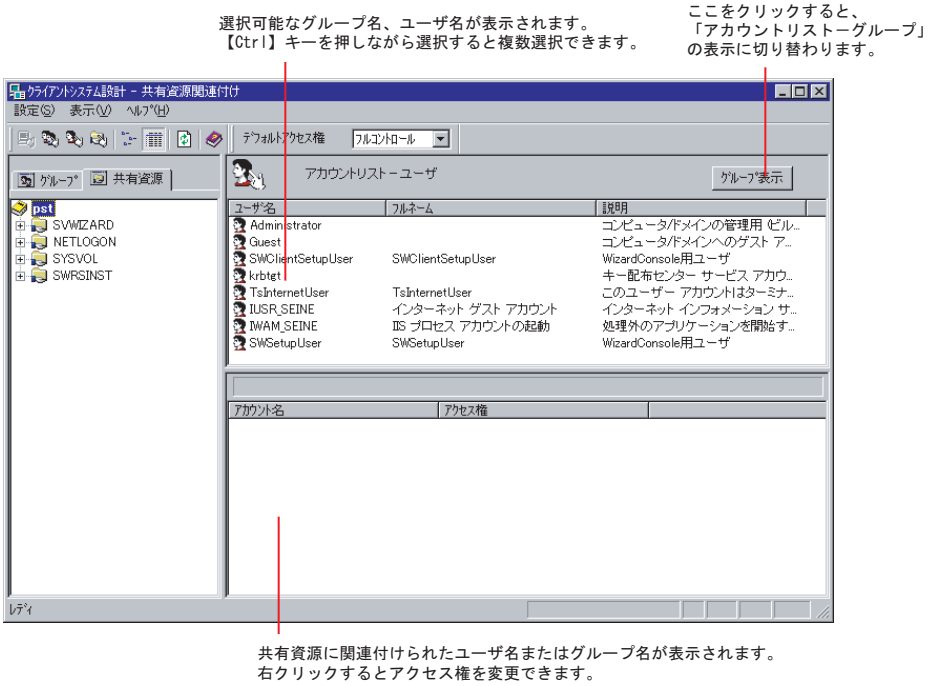

### POINT

- OU 設定時、ビルトイングループとして Active Directory にあらかじめ登録されているグループは、Bold 表示されます。

**1** 設定したいユーザを選択し、「アカウントリスト—ユーザ」から、左側の［グループ］タブ内の目的のグループ、または右下側の「グループ xx に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ & ドロップします（xx は選択されているグループ名）。

## ■ 共有資源の設定（ユーザ・グループ単位）

グループ、ユーザを共有資源に関連付けます。




***1*** **設定したいユーザまたはグループを選択し、「アカウントリスト」から左側の［共有資源］タブ内の目的の共有資源、または右下側の「共有資源 xx に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ & ドロップします（xx は選択されている共有資源名）。**

選択状態の共有資源に関連付けられたユーザ、またはグループのアクセス権を変更する場合は、以降の操作を行ってください。

***2*** **「関連付け一覧」からアクセス権を変更したいアカウントをダブルクリックするか、右クリックします。**

ダブルクリックした場合は、「アクセス権の変更」画面が表示されます。
右クリックした場合は、ポップアップメニューが表示されます。

***3*** **変更したいアクセス権を選択し、［OK］をクリックします。**

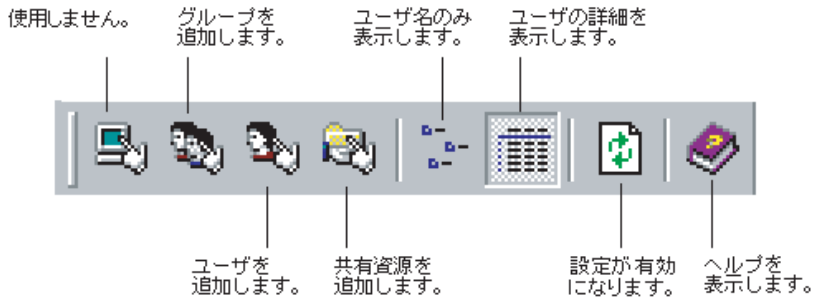
**POINT**

- ツールバーのアクセス権を変更すると、デフォルトのアクセス権を変更できます。
- アカウントの関連付けをキー操作で行うこともできます。
  1. 「アカウントリスト」の目的のアカウントをクリックし、【Ctrl】＋【C】キーを押します。
  2. 左側の［グループ］または［共有資源］タブ内の目的のアカウントをクリックします。
  3. 【Ctrl】＋【V】キーを押します。
- ユーザ、またはグループの関連付けを確認したい場合は、アカウントを選択し右クリックのポップアップメニューから「関連付け確認」を選択します。「関連付け確認」画面が表示されます。

**重要**

- クライアントシステム設計での設定を反映するには、［適用］をクリックするか、「設定」メニューの「適用」を選択してください。

## ■「クライアントシステム設計」画面のツールバー




## ■「クライアントシステム設計」画面のメニュー

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| 「設定」メニュー | |
| 追加／変更 | 追加／変更には以下のサブメニューがあります。<br>・コンピュータ：使用しません。<br>・グループ：グループ情報を追加、または変更します。<br>・ユーザ：ユーザ情報を追加、または変更します。<br>・共有資源：共有資源情報を追加、または変更します。 |
| デフォルトアクセス権 | 表示されたサブメニューからアクセス権を選択します。<br>・フルコントロール：すべての操作が行えます。<br>・変更のみ：変更のみ行えます。<br>・読込みのみ：読み込みのみ行えます。<br>・アクセス権なし：アクセスすることはできません。 |
| 適用 | クライアントシステム設計で設定した内容を保存します。 |
| 終了 | クライアントシステム設計で設定した内容を保存するかを確認するメッセージが表示されます。［OK］をクリックすると、設定内容を保存してクライアントシステム設計を終了します。 |
| 「表示」メニュー | |
| ツールバー | ツールバーの表示、非表示を切り替えます。 |
| デフォルトアクセス権 | ツールバー上のデフォルトアクセス権の表示、非表示を切り替えます。 |
| ステータスバー | ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。 |
| 関連付け画面切替え | グループと共有資源の画面を切り替えます。<br>・グループ：関連付けのツリーをグループに切り替えます。<br>・共有資源：関連付けのツリーを共有資源に切り替えます。 |
| アカウントリスト切替え | ［共有資源］タブ選択中に、アカウントリストの表示をユーザとグループに切り替えます。<br>・ユーザ一覧：アカウントリストにユーザのリストを表示します。<br>・グループ一覧：アカウントリストにグループのリストを表示します。 |
| 関連付け一覧表示切替え | 画面右下の関連付けられたアカウントの表示方法を切り替えます。<br>・小さいアイコン：関連付けられたアカウントを小さいアイコンで表示します。<br>・詳細：関連付けられたアカウントの詳細情報を表示します。 |

# 2.4　リモート OS セットアップ

クライアントに OS をインストール、セットアップするための設定を行います。

インストールする OS の CD-ROM が必要です。あらかじめお手元にご用意ください。

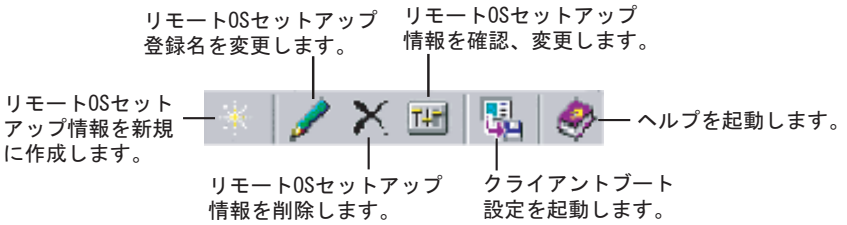
**POINT**

- リモート OS セットアップでインストールできる機種
  Windows 2000 Professional に対応する機種で利用できます。対応機種について、詳しくは富士通パソコン情報サイト FMWORLD（http://www.fmworld.net）をご覧ください。

## 2.4.1　リモート OS セットアップを起動する

***1*** 「WizardConsole」画面で［コンピュータ］タブを選択し、［リモート OS セットアップ］をクリックします。
「リモート OS セットアップ」画面が表示されます。

### ■「リモート OS セットアップ」画面のツールバー



### ■「リモート OS セットアップ」画面の説明

| 項目 | | 説明 |
|---|---|---|
| OS セットアップ登録一覧 | | 登録したクライアントへの OS セットアップ情報の一覧が表示されます。最大、64 個まで登録できます。 |
| | 登録名 | 入力したセットアップ情報の登録名が表示されます。 |
| | OS | セットアップする OS の種別が表示されます。 |
| | 説明 | セットアップ情報の説明が表示されます。 |

### ■「リモート OS セットアップ」画面のメニュー

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| 「セットアップ情報の設定」メニュー | |
| 新規作成 | クライアントへの OS セットアップ情報を新規に作成します。 |
| 登録名の変更 | クライアントへの OS セットアップ情報の登録名、説明を変更します。 |
| 削除 | クライアントへの OS セットアップ情報を削除します。 |
| プロパティ | セットアップ情報の内容を確認、変更します。 |
| CD イメージの登録／削除 | リモート OS セットアップで利用する OS の CD-ROM イメージを削除、または再登録します。 |
| クライアントブート設定起動 | クライアントブート設定を起動します。<br>→「2.7.2 OS セットアップ用」(P.71) |
| 終了 | リモート OS セットアップが終了します。 |
| 「表示」メニュー | |
| ツールバー | ツールバーの表示／非表示を切り替えます。 |
| ステータスバー | ステータスバーの表示／非表示を切り替えます。 |

## 2.4.2 OS セットアップ情報を設定する

クライアント側に OS をインストールする際の情報を設定します。

**1** **「セットアップ情報の設定」メニューから「新規作成」を選択します。**

「新規登録－リモート OS セットアップ」画面が表示されます。

**2** **登録名、説明などを入力して［OK］をクリックします。**

Windows 2000 Professional の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
ただし、すでに Windows 2000 Professional の CD-ROM がコピーされている場合は表示されません。
「ハードディスクの設定」画面が表示されますので、手順 4 へ進んでください。

**3** **Windows 2000 Professional の CD-ROM をセットして、［OK］をクリックします。**

ファイルのコピーが開始されます。
「ハードディスクの設定」画面が表示されます。

**POINT**

- Windows 2000 Professional のインストールには、1GB の容量が必要ですが、リモート OS セットアップの場合は、ワークエリアが必要になりますので最低 2GB 必要です。

**4** OS をインストールするパーティションを設定して、［次へ］をクリックします。

「ユーザ情報の設定」画面が表示されます。

**5** ユーザ情報を設定して［次へ］をクリックします。

「メンバシップの設定」画面が表示されます。

**6** ワークグループ、またはドメインを設定してユーザ情報を設定して、［次へ］をクリックします。

**POINT**

- ドメインに参加する場合は、コンピュータをドメインに参加させる権限のあるアカウントの名前とパスワードが必要です。パスワードは暗号化して保存されます。

**7** ネットワークの設定を行います。

［追加］をクリックすると、「コンポーネントの選択」画面が表示されます。
追加したいコンポーネントを選択し［OK］をクリックします。「ネットワークの設定」画面に戻ります。

**8** ［次へ］をクリックします。

「機能の設定」画面が表示されます。詳細設定が必要なサービスを使用する場合は［詳細］をクリックして、各項目を設定してください。

**9** ［次へ］をクリックします。

「ドライバの追加」画面が表示されます。

**10** Plug&Play に対応した機器のドライバをインストールする場合は、追加するドライバを指定して、［追加］をクリックします。

**11** ［完了］をクリックします。

OS セットアップ情報が設定され、「リモート OS セットアップ」画面に戻ります。
続いてクライアントにインストールするアプリケーション、コピーするファイル、実行コマンドを設定する場合は、「クライアントセットアップ」を行ってください。

## 2.4.3 OS セットアップ情報の登録名を変更する

OS セットアップ情報の登録名と説明を変更します。

**1** 「セットアップ情報の設定」メニューから「登録名の変更」を選択します。

「リモート OS セットアップ」画面が表示されます。

**2** 登録名、説明を変更して［OK］をクリックします。
OS セットアップ情報が変更されます。

## 2.4.4 OS セットアップ情報を確認／変更する

設定した OS セットアップ情報の内容を確認、または変更します。

**1** OS セットアップ登録一覧から操作を行う OS セットアップ情報を選択します。

**2** 「セットアップ情報の設定」メニューから「プロパティ」を選択します。
「OS セットアップ情報のプロパティ」画面が表示されます。

**3** 各設定のタブを選択し、内容を確認して必要に応じて設定を変更してください。

**4** ［OK］をクリックします。

**POINT**

- 削除する場合は、「セットアップ情報の設定」メニューから「削除」を選択します。
  削除を確認するメッセージが表示されますので［はい］をクリックします。
  OS セットアップ情報が削除されます。

## 2.4.5 CD-ROM イメージを削除する

リモート OS セットアップで利用する Windows 2000 Professional の CD-ROM イメージが不要になった場合、CD-ROM イメージを削除して、サーバのハードディスクの空き容量を増やすことができます。

**1** 「セットアップ情報の設定」メニューから「CD イメージ登録／削除」を選択します。
「CD イメージ登録／削除」画面が表示されます。

**2** 削除する CD-ROM イメージの［削除］をクリックします。
ファイルの削除が開始されます。

**POINT**

- 再登録する場合は、再登録する CD-ROM イメージの［読込み］をクリックします。
  ファイルのコピーが開始されます。

# 2.5　クライアントセットアップ

クライアントセットアップでは、クライアント側にインストールするアプリケーション、コピーするファイル、実行するコマンドを指定します。

## ■ セットアップする内容

### ● アプリケーション

アプリケーションソフト（複数のファイルで構成され、setup コマンドなどのインストーラが使われるもの）をクライアント側にインストールするように指定します。インストールが自動化されておらず、インストール時に設定操作が必要なアプリケーションソフトを指定するには、事前に Rational Visual Test® などを使ってスクリプトを作成しておく必要があります。標準的なアプリケーションについては、あらかじめスクリプトが用意されています。

### ● ファイル

クライアント側にコピーするファイルを指定します。ディレクトリを指定すると複数のファイルを一度にコピーするように設定できます。

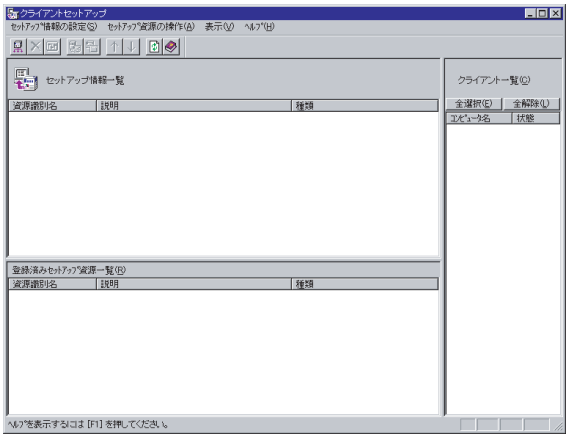
### ● 実行コマンド

クライアント側で最初のログオン時に実行するコマンドを指定します。ファイルのコピーは行われず、コマンドの実行のみが行われます。例えば、インストールしたアプリケーションソフトの環境設定を自動化するバッチファイルなどを指定できます。

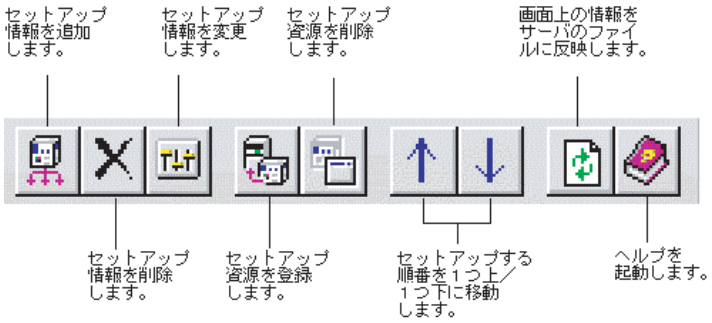
## 2.5.1　クライアントセットアップを起動する

***1*** 「WizardConsole」画面で［コンピュータ］タブを選択し、［クライアントセットアップ］をクリックします。

「クライアントセットアップ」画面が表示されます。



## ■「クライアントセットアップ」画面のツールバー




## ■「クライアントセットアップ」画面の説明

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| セットアップ情報一覧 | セットアップ情報が設定されている資源の一覧が表示されます。登録済み資源と合わせて、64 個まで追加できます。複数選択はできません。 |
| 資源識別名 | セットアップ情報が設定されている資源識別名が表示されます。資源識別名とは、セットアップ資源を識別するためにユーザが指定する名前です。<br>標準対応製品についてはスクリプトが用意されており、資源識別名の先頭に @ が付いています。 |
| 説明 | セットアップ情報が設定されている資源の説明が表示されます。 |
| 種類 | セットアップ情報が設定されている資源の種類が表示されます。資源の種類には「アプリケーション」、「ファイル」、「実行コマンド」の 3 種類あります。 |
| 登録済みセットアップ資源一覧 | 登録済みのセットアップ資源の一覧が表示されます。登録済み資源とは、クライアントにセットアップする資源をサーバ上のディスクに登録した資源です。<br>表示される情報は「セットアップ情報一覧」と同じです。クライアントへのインストールは、この一覧の上から順番に行われます。<br>「セットアップ情報一覧」からセットアップ情報を選択し、資源の登録を行うと、資源がサーバのディスクに登録され、「セットアップ情報一覧」に表示されていた情報が「登録済みセットアップ資源一覧」に移動します。複数選択はできません。 |
| クライアント一覧 | セットアップ情報一覧または登録済みセットアップ資源一覧で選択している情報（資源）のセットアップ対象のクライアントを選択します。<br>初期状態は、すべてのクライアントが選択されています。複数のクライアントを選択できます。<br>なお、バックアップドメインコントローラはセットアップ対象のクライアントとしては表示されません。 |
| 全選択 | 表示されているすべてのクライアントコンピュータを選択状態にします。 |
| 全解除 | 表示されているすべてのクライアントコンピュータを非選択状態にします。 |
| コンピュータ名 | WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」で設定したクライアントのコンピュータ名が表示されます。 |
| 状態 | 資源のセットアップ状態が表示されます。以下の状態があります。<br>・完了：セットアップ済みです。<br>・未完了：セットアップしていません。<br>・エラー：セットアップ情報に異常があり、セットアップに失敗しました。<br>セットアップ情報が正しいか確認してください。 |

## ■「クライアントセットアップ」画面のメニュー

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| 「セットアップ情報の設定」メニュー | |
| 追加 | セットアップ情報を追加します。<br>セットアップ情報は、登録済み資源の情報とあわせて 64 個まで追加できます。64 個を超えて追加しようとすると、メッセージが表示されます。 |
| 削除 | セットアップ情報一覧で選択されているセットアップ情報を削除します。 |
| 設定変更 | 「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ資源の情報を変更します。登録済み資源のセットアップ情報は変更できません。登録済み資源のセットアップ情報を変更したい場合は、セットアップ資源の削除をしてから、セットアップ情報の変更をします。 |
| 設定確認 | セットアップ情報の設定内容を表示します。 |
| 終了 | 設定した情報を保存し、「クライアントセットアップ」画面を終了します。 |
| 「セットアップ資源の操作」メニュー | |
| 資源の登録 | 「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ資源をサーバのディスクに登録します。登録先のフォルダは WizardConsole のインストール時に指定したデータフォルダです。<br>「セットアップ情報一覧」から、セットアップ情報を選択し、［資源の登録］を選択すると、「資源の登録」画面が表示されます。詳細登録したセットアップ情報は「登録済みセットアップ資源一覧」に移動します。 |
| 資源の削除 | 「登録済みセットアップ資源一覧」で選択しているセットアップ資源をサーバのディスクから削除します。資源の削除確認が表示されます。<br>削除されたセットアップ資源は「セットアップ情報一覧」に移動し、「クライアント一覧」の「状態」が「未完了」に戻ります。 |
| 資源の全登録 | 「セットアップ情報一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源をサーバのディスクに登録します。登録されたセットアップ情報は「登録済みセットアップ資源一覧」の最後に、そのままの順番で移動します。 |
| 資源の全削除 | 「登録済みセットアップ一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源をサーバのディスクから削除します。 |
| インストール順番上へ／インストール順番下へ | 「登録済みセットアップ資源一覧」で選択されているセットアップ資源のインストール順番を 1 つ上、または下に移動します。表示順番を上に移動すると、クライアントでのセットアップ順番が早くなります。 |
| 「表示」メニュー | |
| ツールバー | ツールバーの表示／非表示を切り替えます。 |
| ステータスバー | ステータスバーの表示／非表示を切り替えます。 |
| 最新に更新 | 画面上の情報をサーバ上のファイルに反映します。サーバでセットアップ情報および登録済み資源の操作中は、「クライアントセットアップ」画面の情報と、クライアントから参照できる情報が一致しないため、クライアントへのインストールは実行できません。「クライアントセットアップ」画面を終了せずに、インストールを行う場合は、「表示」メニューから「最新に更新」を選択してからインストールを行ってください。サーバ上の情報が更新され、クライアントから最新の情報が参照できるようになります。 |
| 動作環境設定 | 選択できません。グレー表示されます。 |

## 2.5.2　セットアップ情報（アプリケーション）を追加する

クライアント側にインストールするアプリケーションを指定します。
各画面の項目の詳細については、［ヘルプ］をクリックして参照してください。

**1**　**「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報の設定」メニューから「追加」を選択します。**
「セットアップ種類の選択」画面が表示されます。

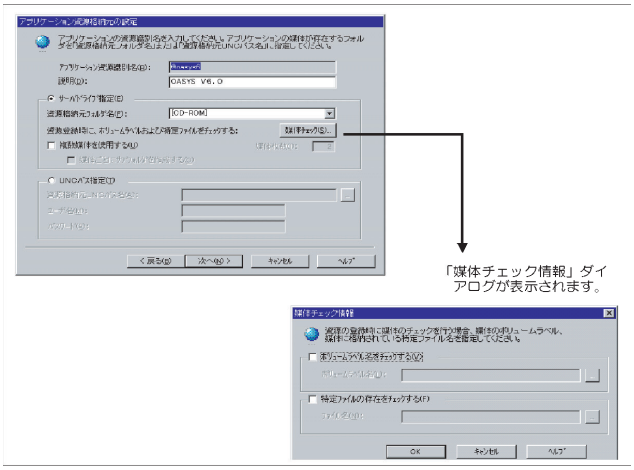
**2**　**「アプリケーション」の「一覧から選択」が選択されていることを確認します。**

**3**　**「標準対応製品」から、インストールしたいアプリケーションソフトを選択し、［次へ］をクリックします。**
「標準対応製品」にインストールしたいアプリケーションが表示されていない場合は、「一覧から選択」のチェックを外して［次へ］をクリックします。

**POINT**

- 「標準対応製品」にないアプリケーションで、対話型インストールを行うアプリケーションを指定するには、事前にスクリプトの作成が必要になります。スクリプトを作成していない場合は、［キャンセル］をクリックして作業を中断し、Rational Visual Test® などを使ってスクリプトを作成してください。
- 「標準対応製品」のアプリケーションによって、インストールできる OS は異なります。「2.10.3 クライアントセットアップ機能に関する留意事項」（→ P.82）を確認してください。サポートしていない OS にインストールすると、アプリケーションを正しくインストールできない可能性があります。

「アプリケーション資源格納元の設定」画面が表示されます。




**4　サーバ内のどのドライブへアプリケーションを登録するかを指定し、［次へ］をクリックします。**

「標準対応製品」から選択した場合は、「インストール詳細設定」画面が表示されます。手順 5 へ進みます。

「標準対応製品」から選択しなかった場合は、「インストーラ情報／スクリプト情報の設定」画面が表示されます。手順 7 へ進みます。

**5　選択したアプリケーション用の詳細設定画面が表示されます。**

各項目の内容については、各アプリケーションのマニュアルを参照してください。

**6　各項目を設定して、［次へ］をクリックします。**

セットアップ情報の設定確認画面が表示されます。手順 9 へ進みます。

**7　「インストーラ情報／スクリプト情報の設定」画面が表示されます。**

「従来のインストーラ製品」と「Windows インストーラ製品」では、表示される項目が異なります。

**8　各項目を設定して、［次へ］をクリックします。**

セットアップ情報の設定確認画面が表示されます。

**9　設定内容を確認して、［完了］をクリックします。**

アプリケーションのセットアップ情報が設定され、「クライアントセットアップ」画面に戻ります。

**10　必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。**

初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

## 2.5.3 セットアップ情報（ファイル）を追加する

クライアント側にコピーするファイルを指定します。

**1** **「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報の設定」メニューから「追加」を選択します。**
「セットアップ種類の選択」画面が表示されます。

**2** **「ファイル」を選択して、［次へ］をクリックします。**
「ファイル情報設定」画面が表示されます。

**3** **各項目を設定して、［完了］をクリックします。**
ファイルの情報が設定され、「クライアントセットアップ」画面に戻ります。

**4** **必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。**
初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

## 2.5.4 セットアップ情報（実行コマンド）を追加する

クライアント側で実行するコマンドを指定します。

**1** **「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報の設定」メニューから「追加」を選択します。**
「セットアップ種類の選択」画面が表示されます。

**2** **「実行コマンド」を選択して、［次へ］をクリックします。**
「実行コマンド詳細設定」画面が表示されます。

**3** **各項目を設定して、［完了］をクリックします。**
実行するコマンドの情報が設定され、「クライアントセットアップ」画面に戻ります。

**4** **必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。**
初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

## 2.5.5　セットアップ情報の内容確認／設定変更

### ● 設定内容を確認する

セットアップ情報の設定内容を確認します。

**1** 「クライアントセットアップ」画面で、設定を確認するセットアップ情報を選択します。

**2** 「セットアップ情報の設定」メニューから「設定確認」を選択します。
各セットアップ情報の設定確認画面が表示されます。

### ● 設定内容を変更する

セットアップ情報の設定内容を変更します。

**1** 「クライアントセットアップ」画面で、設定を変更するセットアップ情報を選択します。

**2** 「セットアップ情報の設定」メニューから「設定変更」を選択します。
各セットアップ情報の設定画面が表示されます。
操作方法は、追加する場合と同じです。

## 2.5.6　セットアップ資源をサーバへ登録する

セットアップ情報で設定した資源をサーバのディスクに登録します。登録先のフォルダは［クライアント一括導入ウィザード］の「クライアントセットアップ」で設定した「共有フォルダ」です。

**重要**

- 各セットアップ資源の登録には、資源の格納先ハードディスクに十分な空き容量が必要です。あらかじめ、十分な空き容量がハードディスクにあるか確認してください。
- 「標準対応製品」のアプリケーションによって、インストールできる OS は異なります。サポートしていない OS にインストールすると、アプリケーションを正しくインストールできない可能性があります。

**1** 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報一覧」からセットアップ資源をサーバに登録するセットアップ情報を選択します。

**2** 「セットアップ資源の操作」メニューから「資源の登録」を選択します。
「セットアップ資源の登録」画面が表示されます。

**3** 内容を確認して、[登録] をクリックします。

セットアップ資源がサーバに登録されます。「クライアントセットアップ」画面の「登録済みセットアップ資源一覧」に資源識別名などが追加されます。クライアントへのインストールは、「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されている順番（上から）で行われます。

## ■ まとめて登録

セットアップ情報で設定したすべての資源をサーバのディスクに登録します。特定のセットアップ資源の登録を行わないようにスキップすることもできます。

**1** 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ資源の操作」メニューから「資源の全登録」を選択します。

1 つめの「セットアップ資源の登録」画面が表示されます。

**2** 内容を確認して、[登録] をクリックします。登録しない場合は [スキップ] をクリックします。

セットアップ資源がサーバに登録され、次の「セットアップ資源の登録」画面が表示されます。

**3** 必要に応じて、手順 2 を繰り返します。

すべてのセットアップ資源の登録が完了すると、「クライアントセットアップ」画面の「登録済みセットアップ資源一覧」に登録が完了した資源名が追加されます。

**POINT**

- セットアップ資源の全登録中に [キャンセル] をクリックすると、セットアップ資源の全登録が中断されます。すでに登録が完了したセットアップ資源は削除されません。

## ■ クライアントへのインストール順を変更する

クライアントへのインストールは、「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されている順番に行われます。インストール順を変更するには、以下の操作を行います。

**1** 「登録済みセットアップ資源一覧」で、インストール順を変更するセットアップ資源を選択します。

**2** ツールバーの [↑] [↓] をクリックして、任意の位置へ移動します。
または「セットアップ資源の操作」メニューから「インストール順番上へ」「インストール順番下へ」を選択します。

インストール順が変更されます。

## 2.5.7 セットアップ資源の登録解除

サーバに登録したセットアップ資源を削除します。

**1** **「クライアントセットアップ」画面で、「登録済みセットアップ情報一覧」からセットアップ資源を削除するセットアップ情報を選択します。**

**2** **「セットアップ資源の操作」メニューから「資源の削除」を選択します。**

すべてのセットアップ資源をサーバから削除する場合は「資源の全削除」を選択します。
確認のメッセージが表示されます。

**3** **［はい］をクリックします。**

「登録済みセットアップ資源一覧」で選択されているセットアップ資源がサーバから削除されます。

# 2.6　デスクトップ環境設定

**デスクトップ環境設定では、サーバ側で、クライアントのデスクトップ環境を一括管理します。**

業務に必要な機能のみをクライアントのデスクトップに表示することで、ユーザが業務に集中しやすい環境を作ります。
また、システムに習熟していないユーザによる偶発的な事故を防ぐこともできます。



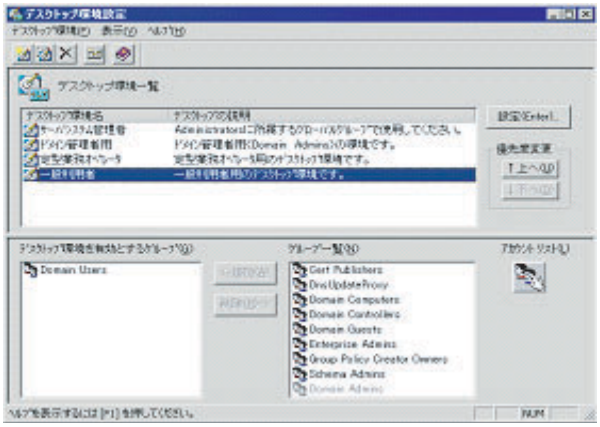
## ■ デスクトップ環境設定の準備

重要

- Windows 2000 Server の場合は、WizardConsole のインストール時に必ず OU を設定してください。OU を設定しなかった場合は、デスクトップ環境設定でクライアント環境制御は行えません。
- デスクトップ環境設定は、Windows Me クライアントのデスクトップ制御をサポートしていません。Windows Me クライアントを使用する場合は、デスクトップ環境設定によるデスクトップ制御を行わないでください。
- サーバ側で設定したポリシー情報の変更は、必ずデスクトップ環境設定を使用してください。デスクトップ環境設定により作成したポリシーをデスクトップ環境設定を使用せずに変更、削除すると、誤動作の原因となります。

**1** 「WizardConsole」画面で［グループ / ユーザ / 共有資源］タブを選択し、［デスクトップ環境設定］をクリックします。

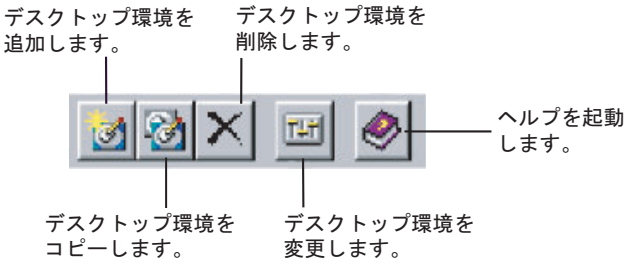
「デスクトップ環境設定」画面が表示されます。



| 項目 | 説明 |
|---|---|
| デスクトップ環境一覧 | 設定されているデスクトップ環境の一覧が表示されます。一覧の上にあるほど優先度が高くなります。デスクトップ環境は 15 個まで作成できます。 |
| ［設定 ..（Enter)］ | 選択しているデスクトップ環境の設定を変更します。クリックまたは、【Enter】キーを押すと「デスクトップ環境の設定」画面が表示されます。 |
| 優先度変更 | 選択しているデスクトップ環境の優先度を【Ctrl】+【↑】【↓】キーで変更します。 |
| デスクトップ環境を有効とするグループ | デスクトップ環境一覧で選択されているデスクトップ環境を使用するグループを表示します。 |
| グループ一覧 | 存在しているグループの一覧が表示されます。この一覧から「デスクトップ環境を有効とするグループ」へ追加することができます。グレー表示になっているグループは他のデスクトップ環境に割り当てられているので、追加することはできません。 |

## ■「デスクトップ環境設定」画面のツールバー

「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、以下のアイコンが表示されます。



### ■「デスクトップ環境設定」画面のメニュー

「デスクトップ環境設定」画面には、次のメニューがあります。

| 項目 | 設定 |
|---|---|
| 「デスクトップ環境」メニュー | |
| 追加 | デスクトップ環境を追加します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。 |
| コピー | デスクトップ環境をコピーします。 |
| 削除 | デスクトップ環境を削除します。 |
| 設定 | デスクトップ環境の設定を変更します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。 |
| 優先度上へ | デスクトップ環境の優先度を 1 つ上げます。 |
| 優先度下へ | デスクトップ環境の優先度を 1 つ下げます。 |
| 終了 | デスクトップ環境設定を終了します。 |
| 「表示」メニュー | |
| ツールバー | ツールバーの表示、非表示を切り替えます。 |
| ステータスバー | ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。 |
| 「ヘルプ」メニュー | |
| トピックの検索 | デスクトップ環境設定のヘルプが表示されます。 |
| バージョン情報 | バージョン情報が表示されます。 |

## 2.6.1 「デスクトップ環境設定」画面での操作

「デスクトップ環境設定」画面での操作について説明します。

### ■ デスクトップ環境の優先順位を設定する

デスクトップ環境はドメインのセキュリティグループに対して割り当てを行います。ユーザは複数のグローバルグループに所属できます。そのためユーザが所属するグローバルグループそれぞれに、デスクトップ環境設定が割り当てられている場合、ユーザにはデスクトップ設定が複数割り当てられていることになります。その場合、デスクトップ環境設定の優先順位を決める必要があります。

1. **「デスクトップ環境一覧」から、優先順位を変更したいデスクトップ環境を選択します。**
2. **「デスクトップ環境」メニューから「優先度上へ」／「優先度下へ」を選択します。**
   画面上の［↑上へ］／［↓下へ］をクリックしても順位を変更できます。

### ■ デスクトップ環境設定の追加変更

- 追加
  「デスクトップ環境」メニューから「追加」を選択するか、[デスクトップ環境の追加] アイコンをクリックします。デスクトップ環境の設定画面が表示されますので、設定を行ってください。
- コピー
  コピーするデスクトップ環境名をクリックし、「デスクトップ環境」メニューから「コピー」を選択するか、[デスクトップ環境のコピー] アイコンをクリックします。
- 削除
  削除するデスクトップ環境名をクリックし、「デスクトップ環境」メニューから「削除」を選択するか、[デスクトップ環境の削除] アイコンをクリックします。

### ■ デスクトップ環境設定を適用するグループの設定

デスクトップ環境を適用するグループを設定します。

- 適用グループを追加する
  「グループ一覧」から追加したいグループを選択し [←追加] をクリックするか、グループ名をダブルクリックします。
- 適用グループを解除する
  「デスクトップ環境を有効とするグループ」から削除したいグループを選択し [削除→] をクリックするか、グループ名をダブルクリックします。

**POINT**

- 「グループ一覧」にはセキュリティグループの一覧が表示されています。グレー表示になっているグループは、他のデスクトップ環境設定に割り当てられているので、追加することはできません。
- [アカウントリスト] で、グローバルグループが追加できます。

## 2.6.2 デスクトップ環境の設定

各デスクトップ環境の詳細設定を行います。各項目の詳細説明は、[ヘルプ] をクリックすると表示されます。

***1*** **「デスクトップ環境設定」画面で、次のいずれかの操作をします。**

**●設定を変更する場合**

・デスクトップ環境名を選択し、[設定] をクリックします。

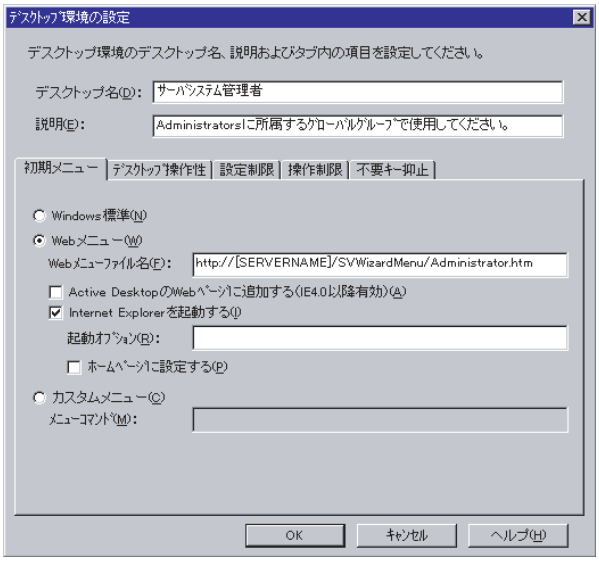
・デスクトップ環境名をダブルクリックします。

**●追加する場合**

・[デスクトップ環境の追加] アイコンをクリックします。

・「デスクトップ環境」メニューから「追加」を選択します。

「デスクトップ環境の設定」画面が表示されます。




| 項目 | 説明 |
|---|---|
| デスクトップ名 | 変更、追加するデスクトップ環境名を入力します。 |
| 説明 | デスクトップ環境の使用基準などの説明を入力します。 |
| ［初期メニュー］タブ | クライアントのログオン直後に表示される初期メニューの設定を行います。 |
| ［デスクトップ操作性］タブ | デスクトップの操作性に関する制限を行います。 |
| ［設定制限］タブ | 各種設定に関する制限を行います。 |
| ［操作制限］タブ | ユーザの操作に関する制限を行います。 |
| ［不要キー抑止］タブ | 入力操作を無効にするキーの設定を行います。 |

**POINT**

- デスクトップ環境設定に関する詳細やトラブルシューティングについては、ヘルプを参照してください。

## 2　各タブをクリックし、項目を設定します。

**POINT**

- ［初期メニュー］タブ
  Web メニュー（WizardMenu）は、Internet Explorer 上で、ボタンを選択してアプリケーションを起動する機能です。Web メニューは、WizardMenu 作成ツールを使用して、大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けるなど、自由な形式で作成できます。WizardMenu 作成ツールを起動するには、WizardConsole インストール終了後に「スタート」ボタン→「プログラム」→「ServerStart」→「WizardMenu 作成ツール」の順にクリックします。
  Web メニュー、WizardMenu 作成ツールについての詳細は、それぞれのヘルプを参照してください。
  IIS が構成されていない状態で WizardConsole をインストールすると、WizardMenu が利用できません。その場合は、以下の操作を行ってください。
  1. サーバ上に IIS（バージョン 3.0 以上）を構成します。
  2. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「インターネット サービス マネージャ」の順にクリックします。

3. WWW サービスのプロパティを開き、［ディレクトリ］タブから、以下の 3 つのフォルダに対し、エイリアスを追加します。
   - c:¥WZCNSL¥desktop¥iCGI：エイリアス名「ServerWizardMenu¥APPS」
   - c:¥WZCNSL¥desktop¥Controls：エイリアス名「ServerWizardMenu¥Controls」
   - c:¥WZCNSL¥desktop¥inetpub：エイリアス名「ServerWizardMenu」
4. WWW サービスを再起動します。
5. デスクトップ環境設定の［初期メニュー］タブで「Web メニュー」を選択します。

▶ ［デスクトップ操作性］タブ
「タスクバーを隠す」をチェックすると、「スタート」ボタンからのログオフ操作ができなくなります。この項目を設定する場合には、メニューにログオフの項目を追加するなど、ログオフを行う手段を必ず用意してください。
ログオフを行うには、"ExitWin.exe" を起動してください。
"ExitWin.exe" コマンドは、システムフォルダ配下（NT の場合 "C:¥Winnt¥system32"）に格納されています。

### 3 ［OK］をクリックします。

デスクトップ環境が変更、設定されます。

### 4 デスクトップ環境設定を終了します。

デスクトップ環境の変更、設定は、デスクトップ環境設定の終了時に適用されます。

# 2.7　クライアントブート設定

**クライアントブート設定では、クライアントコンピュータのセットアップ内容、起動方法を設定します。**

クライアントブート設定は、クライアントのセットアップ方法によって、次の 2 種類があります。セットアップ内容に合わせて設定を行ってください。
操作を始める前に、あらかじめ未使用のフロッピーディスクを用意してください。



### ● OS セットアップ用

クライアントコンピュータのハードディスクを初期化し、新規に OS をインストールする場合に使用します。
クライアントブート設定を行う前に、あらかじめ「リモート OS セットアップ」の設定を行ってください。

### ● ClientWizard 用

ClientWizard でセットアップを行うためのフロッピーディスクを作成します。ClientWizard は、インストールモデルなど、すでに OS がインストールされているクライアントコンピュータのネットワーク環境（IP アドレスやドメインへの参加など）を設定する機能です。また、クライアントセットアップで設定したアプリケーションなどのセットアップも行います。

## ■ MS-DOS イメージの作成

リモート OS セットアップでは、クライアントを起動するために、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクが必要です。通常は、あらかじめ MS-DOS の起動用のフロッピーディスクを作成して使用しますが、WizardConsole では、初回の起動設定時に、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを使用することで、起動に必要な情報を「MS-DOS イメージ」としてサーバに格納します。2 回目以降は、サーバに格納された MS-DOS イメージを使用して起動設定を行います。

**POINT**

- **MS-DOS イメージ作成中に、ファイルが不足している旨のメッセージが表示される場合があります。その場合は、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成したシステムから、メッセージで要求されたファイルをコピーしてください。**

### ● MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクの作成

MS-DOS イメージを作成するための MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを、あらかじめクライアントコンピュータに添付のドライバーズ CD-ROM から FD バックアップコマンドを使用して作成します。FD バックアップコマンドの使用方法については、ドライバーズ CD-ROM に添付のマニュアルを参照してください。

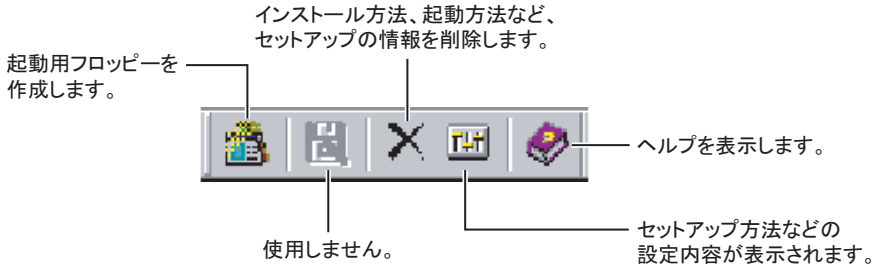
### ● MS-DOS イメージの削除

作成した起動用フロッピーディスク、またはネットワークからの起動が正常に行われない場合は、サーバに格納された MS-DOS イメージを削除し、再度 MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、起動設定をやり直してください。
MS-DOS イメージを削除するには、クライアントブート設定を起動し、「起動イメージの設定」メニューから「MS-DOS イメージの削除」を選択します。
確認のメッセージが表示されるので、削除する場合は［OK］をクリックします。

## 2.7.1 クライアントブート設定を起動する

**1** 「WizardConsole」画面で［コンピュータ］タブを選択し、［クライアントブート設定］をクリックします。
「クライアントブート設定」画面が表示されます。

### ■「クライアントブート設定」画面のツールバー



### ■「クライアントブート設定」画面の説明

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| コンピュータ名 | WizardConsole で管理しているコンピュータ名が表示されます。 |
| OS | OS の種類が表示されます。 |
| インストール方法 | 設定されているインストール方法が表示されます。 |
| 起動方法 | 起動方法が表示されます。 |
| パラメータ | パラメータをどこで指定するかが表示されます。 |
| LAN ドライバ | 設定されている LAN ドライバが表示されます。 |

### ■「クライアントブート設定」画面のメニュー

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| 「起動イメージの設定」メニュー | |
| FD 作成 Wizard | クライアント起動用フロッピーディスクを作成します。 |
| MS-DOS イメージの削除 | 起動用フロッピーディスクの MS-DOS イメージを削除します。 |
| 削除 | インストール方法、起動方法など、セットアップの情報を削除します。起動用フロッピーディスクからの起動がうまくいかない場合は、MS-DOS イメージを削除し、再度 MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、起動用フロッピーディスクを作成し直してください。 |
| プロパティ | セットアップ方法などの設定内容が表示されます。 |

## 2.7.2 OS セットアップ用

あらかじめリモート OS セットアップ機能を実行し、OS をセットアップするための各設定を行っておいてください。
コンピュータの OS が Windows 2000 Professional の場合のみ有効です。それ以外の場合にはエラーメッセージが表示されます。

**1** 「コンピュータ名」から対象のコンピュータを選択します。
複数のコンピュータを選択できます。

**2** 「起動イメージの設定」メニューから「ブート／セットアップ設定」を選択します。
セットアップの種類を選択する画面が表示されます。

**3** 「OS セットアップ用」を選択して、［次へ］をクリックします。
「登録名の指定」画面が表示されます。

**4** 登録名を指定して、［次へ］をクリックします。
「LAN カード指定」画面が表示されます。

**5** 利用する LAN カードを指定します。
「その他のドライバ」以外を選択した場合は、手順 9 に進みます。

**6** ［次へ］をクリックします。

**7** 「その他のドライバ」を選択した場合は、クライアントで使用する LAN カードのドライバを指定して、［次へ］をクリックします。

［参照］をクリックして、ファイルを選択できます。

**POINT**

- 利用する LAN カードに「その他のドライバ」を選択した場合は、お使いのシステムによって "Protocol.ini" ファイルの編集が必要です。［詳細］をクリックし、設定してください。ただし、IO ポート /IRQ の設定がそれぞれ 0x300/10 の場合は、編集の必要はありません。
  例）「FMV - 181/2/3/4」を選択した場合、以下の行を編集します。

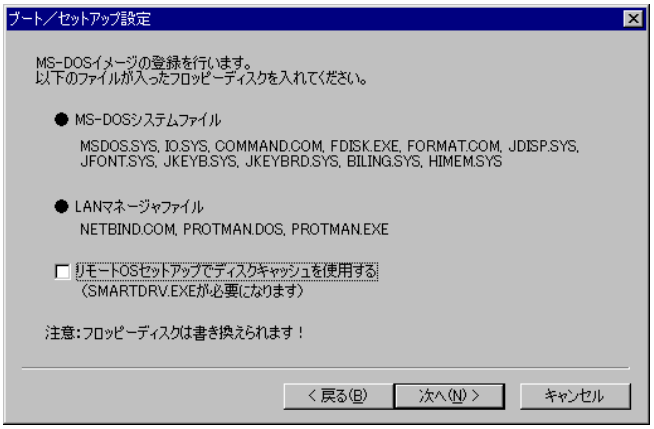
```
[FMV-18x-NIF]
Drivername = FJN00I$$
IOAddress = 0x300
Interrupt = 10
```

**8** LAN カードのタイプを指定します。

「NonPNP」を指定した場合は、「IO ポート」と「IRQ」を指定してください。

**9** ［次へ］をクリックします。

フロッピーディスクのセットを促す画面が表示されます。
初回設定時は、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、セットしてください。




**POINT**

- 「リモート OS セットアップでディスクキャッシュを使用する」をチェックすると、"SMARTDRV.EXE" が組み込まれ、OS セットアップの処理が早くなります。
- MS-DOS® LANマネージャファイルは、以下のMicrosoftのWebサイトからダウンロードして入手できます。
  ftp://ftp.microsoft.com/bussys/clients/msclient/

2 回目以降は、初期化済みのフロッピーディスクをセットしてください。

**POINT**

- 初期化されていないフロッピーディスクの場合は［初期化する］をクリックし、フロッピーディスクを初期化します。ただし、初期化を実行しても不良セクタがある場合は、別のフロッピーディスクを使用してください。

**10** フロッピーディスクをセットして、[次へ] をクリックします。
作成が開始されます。終了すると、「完了」画面が表示されます。

**11** [完了] をクリックします。
「クライアントブート設定」画面に戻ります。
作成したフロッピーディスクのラベルには、「コンピュータ名（OS セットアップ）用ディスク」と書いておいてください。



## 2.7.3 ClientWizard 用フロッピーディスクの作成

**1** 「コンピュータ名」から対象のコンピュータを選択します。
複数のコンピュータを選択できます。

**2** 「起動イメージの設定」メニューから「ブート／セットアップ設定」を選択します。
セットアップの種類を選択する画面が表示されます。

**3** 「ClientWizard 用」を選択して、[次へ] をクリックします。
「クライアント情報ファイルの作成」画面が表示されます。

**4** フロッピーディスクをセットして、[次へ] をクリックします。

**POINT**

- 初期化されていないフロッピーディスクの場合は [初期化する] をクリックし、フロッピーディスクを初期化します。ただし、初期化を実行しても不良セクタがある場合は、別のフロッピーディスクを使用してください。

クライアント情報ファイルが作成され、フロッピーディスクに登録されます。登録が終了すると、「クライアントブート設定」画面に戻ります。
作成したフロッピーディスクのラベルには、「コンピュータ名（ClientWizard 用）」と書いておいてください。

## 2.7.4 クライアントのインストール方法、起動方法の変更

クライアントの起動設定を行ったあと、クライアントのインストール方法などの情報を変更する場合は、一度登録した情報を削除して、再度「FD 作成 Wizard」を行ってください。

**1** 変更対象のコンピュータを選択します。

**2** 「起動イメージの設定」メニューから「削除」を選択します。
確認のメッセージが表示されます。

**3** [OK] をクリックします。
情報が削除されます。

# 2.8　クライアントへのインストール

クライアントのインストール、セットアップを行います。
クライアントに OS がインストールされている場合と、インストールされていない場合とで、操作が異なります。

## 2.8.1　クライアントに OS がインストールされていない場合

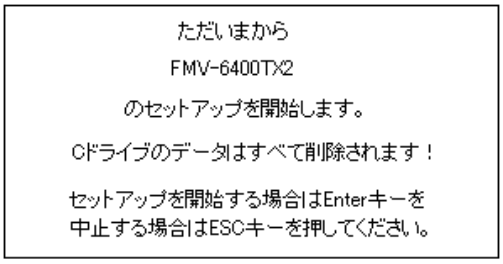
リモート OS セットアップで設定した情報を使って、クライアントコンピュータに OS をインストールします。

**重要**

- あらかじめクライアントブート設定の「2.7.2 OS セットアップ用」（→ P.71）を行い、リモート OS セットアップ用フロッピーディスクを作成してください。

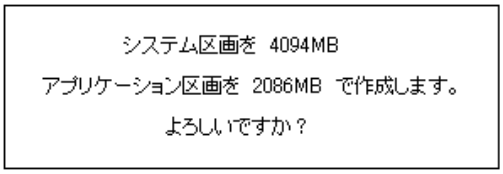
**1**　**クライアント起動用フロッピーディスクをセットして、コンピュータの電源を入れます。**

「OS セットアップ起動」画面が表示されます。




**2**　**登録名が正しいことを確認して、【Enter】キーを押します。**

「ユーザ情報の設定」画面で指定したパーティションサイズを設定できない場合、パーティションサイズを調整する旨の確認の画面が表示されます。




**3**　**表示されたパーティションサイズでパーティションを作成する場合は、【Enter】キーを押します。**

C ドライブのフォーマットに続いて、セットアップに必要なファイルがコピーされ、OS のインストールが開始されます。OS のインストール終了後、必要に応じてクライアントセットアップ機能をインストールしてください。

### ■ クライアントセットアップ機能のインストール

Windows 2000 Professional のインストール終了後、デスクトップ上にある［クライアントセットアップ機能のインストール］アイコンをダブルクリックします。
クライアントセットアップ機能がインストールされます。
セットアップを正しく行うには管理者権限が必要です。また、クライアントセットアップ機能を有効にするには、インストール終了後、再起動してください。

**POINT**

- セットアップ中に「ウィンドウステーションがシャットダウン中であるため、初期化に失敗しました。」というメッセージが表示されることがありますが、運用上の支障はありません。
- クライアントにセットアップ資源をインストールするタイミングを設定する場合は、「2.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング」（→ P.78）を参照してください。

**重要**

- セットアップする機種によってはインストール中に Internet Explorer や ServicePack の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されることがあります。
  これらの CD-ROM は、ドライバやアプリケーションを正しく動作させるのに必要ですので、メッセージに従って CD-ROM をセットしてください。CD-ROM をセットせずに操作を進めた場合、以降のセットアップが正しく行われない可能性があります。
  その他の注意点に関しては、リモート OS セットアップを開始する前に、クライアントコンピュータに添付のマニュアルでご確認ください。

## 2.8.2 クライアントに OS がインストールされている場合

インストールモデルなど、すでに OS がインストール済みのクライアントコンピュータのセットアップを行います。クライアントセットアップで設定した内容もセットアップされます。

**重要**

- クライアントのインストールを行う前に、起動中のアプリケーションをすべて終了しておいてください。Windows 2000 Professional または Windows XP Professional を使用している場合は、管理者用アカウントでログオンしてください。
- あらかじめクライアントブート設定の「2.7.3 ClientWizard 用フロッピーディスクの作成」（→ P.73）を行って、ClientWizard 用のフロッピーディスクを作成してください。

**1** セットアップを行うクライアントコンピュータに、ClientWizard 用フロッピーディスクをセットします。
フロッピーディスクは、書き込み可能な状態にしておいてください。

**2** エクスプローラなどでフロッピーディスクドライブをクリックします。

**3** ［CWizard］をダブルクリックします。

ClientWizard が起動します。

**4** ［クライアントの登録］をクリックします。

「コンピュータ選択」画面が表示され、接続するサーバ情報が表示されます。

**5** セットアップするコンピュータを選択します。

をクリックし、コンピュータ名の一覧からセットアップするコンピュータ名を選択します。

**6** ［次へ］をクリックします。

「設定の確認」画面が表示されます。
すでにドメインに参加していて、かつコンピュータ名を変更するときは、「コンピュータ名の変更」画面が表示されます。［OK］をクリックし、画面の指示に従って、コンピュータ名を変更します。

**重要**

- クライアントが Windows 2000 Professional または Windows XP Professional の場合、ドメイン参加中にコンピュータ名を変更することができません。以下の操作を行ってワークグループに変更し、再度 ClientWizard の起動からやり直してください。
  1. 「システムのプロパティ」画面で［ネットワーク ID］（Windows XP Professional は［コンピュータ名］）タブをクリックします。
  2. ［プロパティ］（Windows XP Professional は［変更］）をクリックします。
  3. 「識別の変更」（Windows XP Professional は「コンピュータ名の変更」）画面の「次のメンバ」で「ワークグループ」を選択します。
  4. ワークグループ名（WORKGROUP など）を入力し、［OK］をクリックします。
  5. 画面の指示に従って、再起動します。

**7** ［実行］をクリックします。

セットアップが開始されます。
セットアップが終了した項目にはチェックマークが付きます。

**8** LMHOSTS の編集が終了すると、再起動のメッセージが表示される場合があります。その場合は、フロッピーディスクを取り出して、［OK］をクリックします。

再起動され、ログオン画面が表示されます。

**9** 以降、ご使用の OS により、操作が異なります。

●Windows Me の場合

1. ユーザ名はデフォルトで表示されますので、ユーザ名を変更せず、パスワードを入力しないで［OK］をクリックします。
   初めてサーバにログオンする場合、「パスワードの確認」画面が表示されますが、何も入力せずに［OK］をクリックしてください。
   アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行っていた場合は、「クライアント導入フロッピーディスクをセットし、準備ができたら OK を押してください。」というメッセージが表示されます。
2. ClientWizard 用フロッピーディスクを再度セットして［OK］をクリックします。
   セットアップが終了すると、システムが再起動されます。
3. ClientWizard 用フロッピーディスクを取り出して［OK］をクリックします。
   再起動後、ログオン画面が表示されます。

●Windows 2000 Professional / Windows XP Professional の場合

1. 管理者用アカウントでログオンしてください。
   以前に別のドメインに参加していた場合、そのドメイン名が表示されますが、「ドメイン」には、ローカルコンピュータアカウントを指定してください。引き続きセットアップの処理が行われます。
   アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行っていた場合は「クライアント導入フロッピーディスクをセットし、準備ができたら OK を押してください。」のメッセージ画面が表示されます。
2. ClientWizard 用フロッピーディスクを再度セットして［OK］をクリックします。
   セットアップが終了すると、システムが再起動されます。
3. ドメイン名変更要求の画面が表示されたら［OK］をクリックします。
   ネットワークパネルが表示されるので、ドメイン名を指定どおり変更して再起動してください。再起動後、ログオン画面が表示されます。

**10** 実際にログオンするユーザ名、パスワードを入力して［OK］をクリックします。

「パスワードの確認」画面（変更）が表示されます。
ユーザ名とパスワードはサーバの管理者に確認してください。

**11** 「パスワード」、「パスワード確認」を入力して［OK］をクリックします。

ログオン画面が表示されます。

**12** パスワードを入力して［OK］をクリックします。

「OS の起動」画面が表示されます。
クライアントセットアップの設定が行われていた場合は、サーバで設定したセットアップ指示に従い、アプリケーションやファイルがインストールされます。

**重要**

- クライアントセットアップによるクライアントへの資源の自動インストールは、ClientWizard 起動後の初回ログオン時に一度だけ行われます。ただし、この時にセットアップ指示がない場合は、セットアップ指示が設定されたあとの最初のログオン時に一度だけ行われます。クライアントに資源がセットアップされるタイミングを設定する場合は、「2.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング」（→ P.78）を参照してください。

**POINT**

- 一度セットアップしたコンピュータ名は、ClientWizard 用フロッピーディスクから削除されます。
- セットアップ後のクライアントコンピュータにおいて、OS を再インストールし、前回のセットアップ時と同じコンピュータ名でセットアップを行う場合は、WizardConsole で一度コンピュータ名を削除してください。その後、新しくコンピュータを追加し、ClientWizard 用フロッピーディスクを作成し、セットアップを行ってください。
- Active Directory にログオンするクライアントは、ネットワークの DNS サーバの設定を行ってください。正しく設定を行わなかった場合、デスクトップ環境設定で行ったポリシー設定をクライアントに適用できません。
- Active Directory に Windows 2000 Professional または Windows XP Professional クライアントから Administrator アカウントでログオンする場合、デフォルトではポリシー設定は適用されません。管理者にもポリシー設定を反映させる場合は、管理者用のアカウントを「クライアント情報の追加／変更」で作成し、そのアカウントが属するグループに対してポリシー設定を行ってください。

## 2.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング

セットアップ資源をクライアントにインストールするタイミングを指定します。初期状態は、次にクライアントがログオンしたときにセットアップ資源がインストールされるように設定されています。セットアップを行ったクライアントコンピュータで操作します。

**1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「WizardConsole Client」→「クライアントセットアップ－クライアントセットアップ動作環境」の順にクリックします。

「クライアント動作環境設定」画面が表示されます。

**2** クライアントログオン時にセットアップを実行するかしないかを選択して［OK］をクリックします。

「実行する」を選択した場合は、次回クライアントコンピュータのログオン時にセットアップ資源が自動的にインストールされます。

**重要**

- セットアップ資源のインストールに失敗した場合、「クライアントセットアップ」画面で設定したセットアップ情報が間違っていることが考えられます。セットアップ情報を見直してください。

**POINT**

- 以下のような場合、セットアップ資源が再インストールされます。再インストールを行いたくない場合は、「クライアントセットアップ」画面のクライアント一覧に表示されるクライアントコンピュータを非選択状態にしてください。
  - ・サーバに同一製品が異なる資源識別名で登録された場合
  - ・サーバに同一製品を再登録した場合
  - ・クライアントの OS を入れ替えたことにより、クライアントセットアップを使用してインストールした資源の情報が削除されてしまった場合

# 2.9　変更した情報の登録

WizardConsole で追加、変更した設定情報を登録するには、「コンフィグレーションファイルの作成」を行い、フロッピーディスクに保存します。別のサーバ構築時に使用できます。



**重要**

- コンフィグレーションファイルに保存される情報は、以下の情報です。
  - コンピュータアカウント
  - ユーザアカウント、グループ、共有資源の設定
  - デスクトップ設計情報
- パスワード、サーバの IP アドレス、添付アプリケーションの設定等、運用中に更新・変更されたサーバの情報は、コンフィグレーションファイルに保存されません。そのため、システムのバックアップには使用できません。
  システムのバックアップは専用のソフトウェアを使用して定期的に行ってください。

***1*** 「WizardConsole」画面で、［コンピュータ］タブを選択し、［コンフィグレーションファイルの作成］をクリックします。
「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。

***2*** サーバ情報ファイルの保存先を指定し、ファイル名を入力します。

**重要**

- ファイル名には、任意の名前を使用できますが、"SerStartBatch.ini" という名前のファイルのみ OS のインストールが可能です。

***3*** ［保存］をクリックします。
コンフィグレーションファイルが作成され、「WizardConsole」画面に戻ります。

**重要**

- WizardConsole で作成したコンフィグレーションファイルは、そのままではインストールできません。必ず ServerStart ガイドモードまたは事前設定モードでコンフィグレーションファイルの内容を確認し、適切に修正してから上書き保存してご使用ください。
- Windows 2000 Server および WizardConsole で予約されているグループ、ユーザ、共有資源の設定を変更した場合、サーバを再インストールしても設定は更新されません。再インストール後、WizardConsole で設定し直してください。

# 2.10 WizardConsole 使用時の留意事項

WizardConsole 使用時にエラーなどが発生した場合の対処方法について説明します。
その他、留意事項についても説明しています。

## 2.10.1 トラブルシューティング

### ■ 画面に表示されるメッセージについて

#### ●「サーバ内の資源情報を参照できませんでした。サーバの情報を最新に更新してから再試行してください。」と表示された場合

サーバ側で「クライアントセットアップ」画面の操作中にクライアント側でログオンすると、「サーバ内の資源情報を参照できませんでした。サーバの情報を最新に更新してから再試行してください。」というメッセージが表示されます。

操作中の「クライアントセットアップ」画面で をクリックするか、「表示」メニューから「最新に更新」を選択したあと、「インストールコマンド」画面の［再試行］をクリックしてください。

#### ● クライアントコンピュータへのインストール中に「セットアップに失敗した資源があります」と表示された場合

サーバのクライアントセットアップを起動し、「クライアント一覧」で対象クライアントコンピュータのセットアップ結果を確認してください。確認時は、「表示」メニューから「最新に更新」を実行してください。
「登録済みセットアップ資源一覧」でセットアップを行った資源を選択し、クライアント一覧のセットアップ状態が「エラー」の場合は、その登録資源についてセットアップ情報を見直し、正しい設定で資源の再登録を行ってください。
ただし、資源の再登録を行った場合はセットアップが完了しているクライアントの状態も未完了となりますので、セットアップが完了しているクライアントについては、対象クライアントの選択を解除してください。

#### ●「デスクトップ環境設定」画面を閉じる時に「システムポリシーファイルの作成中に異常が発生しました。」とエラーメッセージが表示された場合

Windows 2000 Server のドメインコントローラ上でデスクトップ環境設定を使用する場合、デスクトップ環境設定を起動した管理者ユーザが「Enterprise Admins」グループに属していないと、このメッセージが表示されます。
この場合、ポリシーの変更は失敗しており、設定は保存されていません。管理者ユーザを「Enterprise Admins」グループに追加して再起動し、デスクトップ環境設定をやり直してください。

## ■ ログオン時に自動的に Internet Explorer が起動する場合

WizardConsole をインストールしたサーバ、または起動用フロッピーディスクでセットアップしたクライアントコンピュータにログオンした直後に、Internet Explorer が起動することがあります。
WizardMenu を使用しない場合は、サーバ側で WizardConsole の「デスクトップ環境設定」を起動し、［初期メニュー］タブで「Windows 標準」を選択します。
また、WizardMenu を使用する場合は、IIS がサーバ上に構成されていない状態のとき、Internet Explorer が起動する際にエラーとなります。WizardMenu を使用するには、以下の操作を行ってください。

1. サーバ上に IIS（バージョン 3.0 以上）を構成します。
2. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「インターネットサービスマネージャ」の順にクリックします。
3. WWW サービスのプロパティを開き、以下の 3 つのフォルダに対して、［ディレクトリ］タブからエイリアスを追加します。
   - c:¥WZCNSL¥af12¥CGI：エイリアス名「ServerWizardMenu¥APPS」
   - c:¥WZCNSL¥af12¥Controls：エイリアス名「ServerWizardMenu¥Controls」
   - c:¥WZCNSL¥af13¥inetpub：エイリアス名「ServerWizardMenu」
4. WWW サービスを再起動します。
5. デスクトップ環境設定の［初期メニュー］タブで「Web メニュー」を選択します。

## ■ 電源スイッチを押しても電源が切れない場合

セットアップ中、PCI カードのコンフィグレーションチェックでエラーがあった場合、エラーメッセージを表示後に電源スイッチを押しても電源が切れないことがあります。この場合、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切り、エラー要因を取り除いてください。

## ■ Intel® PROSetII がインストールされない場合

Windows 2000 Server インストール後、「コントロールパネル」に、「Intel® PROSet II」が登録されていない場合は、以下の手順に従ってインストールしてください。

1. ServerStart の CD-ROM 内の以下の EXE を起動します。
   ［CD-ROM ドライブ］¥Tools¥GENERAL¥Intel¥ProSetW2k¥ProSet.exe
2. 「Automatic execution-runs setup immediately」を選択して、［OK］をクリックします。
   以降、画面の指示に従ってインストールを行ってください。

### ■ リモート OS セットアップ中に発生する可能性のあるエラーについて

| エラーコード | 原因と対策 |
|---|---|
| 10 | パーティションが作成できませんでした。<br>OS セットアップを実行してパーティションサイズを変更し、フロッピーディスクを作成し直してください。 |
| 11 | サーバと通信できなかった場合に発生します。以下の原因と対策があります。<br>原因 1 : LAN ケーブルが正しく接続されていません。<br>対策 1 : LAN ケーブルがきちんと接続されているか確認してください。<br>原因 2 : サーバ上で TFTP サービスが実行されていません。<br>対策 2 : コントロールパネルより「サービス」の「Fujitsu SystemcastWizard / ServerStart TFTP Service」が開始されているか確認してください。<br>原因 3 : サーバとクライアントが同じネットワーク上にいません。<br>対策 3 : サーバとクライアントの IP アドレスとサブネットマスクを確認してください。同じネットワークにいない場合はゲートウェイアドレスを設定してください。<br>原因 4 : 指定されたファイルがサーバ上で見つかりません。<br>対策 4 : OS セットアップ実行後にファイルが削除された可能性があります。再度 OS セットアップを実行してドライバーズ CD-ROM をコピーし直してください。 |
| 12 | 情報ファイル "Cwizard.ini" の内容が正しくありません。<br>OS セットアップを実行して、フロッピーディスクを作成し直してください。 |
| 15 | ファイルの書き込みができませんでした。<br>ディスクが利用可能な状態になっていない可能性があります。ディスクを利用可能な状態にしてください。 |
| 20 | クライアントのコンピュータ情報が取得できませんでした。<br>WizardConsole のクライアントブート設定で、再度 OS セットアップ用フロッピーディスクを作成してください。 |

## 2.10.2 クライアントコンピュータの追加／変更時の留意事項

「クライアントセットアップ機能」で定義された資源は、ServerStart または WizardConsole で指定したクライアントコンピュータに対してインストールされます。
WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」を行ったクライアントについては、デフォルトでセットアップ資源のインストール対象になります。追加／変更したクライアントコンピュータに対してセットアップ資源のインストールを行わない場合は、WizardConsole のクライアントセットアップを起動し、インストール対象から解除してください。

## 2.10.3 クライアントセットアップ機能に関する留意事項

### ■ 同時インストールできる台数

「クライアントセットアップ機能」で定義した内容を同時にインストールできるクライアントコンピュータの台数は 15 台です。15 台以上インストールする場合は、一度にインストールするクライアント台数を 15 台単位で行ってください。

## ■ 標準対応製品をインストールする際の注意事項

### ● 標準対応製品のインストール可能 OS とインストール条件

標準対応製品によってインストールできる OS は異なります。また、インストール時の条件も各標準対応製品で異なります。適切なインストール対象クライアントを選択してください。

### ● インストールに必要なハードディスク容量の確認

ハードディスク空き容量が不十分なクライアントへのインストールは、アプリケーションエラーになる場合があります。クライアント環境の違いにより、インストールに必要なハードディスク容量は異なります。あらかじめ十分な空き容量を確認してください。

## ■ クライアントセットアップ機能でインストールしたアプリケーションの削除

### ● アプリケーションの削除方法

「クライアントセットアップ機能」でインストールしたアプリケーションをアンインストールする場合は、アプリケーションに添付されているマニュアルを参照してください。

### ● アンインストールが失敗する場合

クライアントセットアップで登録されたアプリケーションをサーバで削除した場合、アプリケーションのアンインストール時にエラーが発生する場合があります。
エラーが発生した場合は、アプリケーション媒体を使用してアンインストールを行ってください。

## ■ スクリプトに関する留意事項

### ● スクリプトを使用してインストールする場合

標準対応製品等でスクリプトを使用してインストール実行中は、マウス・キーボードに触らないでください。スクリプトが停止し、サイレントインストールが失敗する原因となります。

### ● アプリケーションインストール用のスクリプト作成時の注意事項

クライアントセットアップ機能で使用するアプリケーションインストール用スクリプトは、以下の手順で作成してください。なお、スクリプト作成を簡単にするには、アプリケーションをインストールするコンピュータと同一環境でスクリプト採取することを推奨します。

1. クライアントコンピュータへインストールするアプリケーションのインストールコマンドを起動します。
2. 上記インストールコマンドの初期画面が表示されたら、Windows 上で動作する自動化ツールを使用し、インストール操作のイベント採取を開始します。

**POINT**

- Windows 上で動作する自動化ツールとは
  Windows 上で利用者が行った操作をファイルにスクリプト形式で格納し、そのスクリプトを実行して操作を再現するツールです。
  例）米国 Rational SoftWare Corporation の Rational Visual Test®

***3*** インストール処理が終了したら、自動化ツールのイベント採取を終了します。

***4*** 採取したスクリプトを、配付先のクライアントの環境に合わせて編集し必要に応じてコンパイルします。
コンパイルが必要かどうかは使用する自動化ツールのマニュアルを参照してください。

**POINT**

- スクリプトの編集について
  採取したスクリプトは、イベント採取したマシンに密着したものになっているため、複数のマシンで共通に使用するためには下記の点をカスタマイズする必要があります。
  ・不要関数の削除
  イベント採取で不要なイベントを採取した場合は、不要な処理や関数を削除します。
  ・画面待ち合わせ
  ・採取したスクリプトを実行する際、実行マシンの性能により処理速度が異なるため、スクリプト内で時間を指定して処理の待ち合わせを行うと動作が不安定になります。時間指定で待ち合わせている個所は、待ち合わせ時間を長くするか、次に表示される画面で待ち合わせを行うようにカスタマイズします。
  ・画面の切り分け
  インストール時に表示される画面が局面によって異なる場合は、同一グループ内で複数の画面の待ち合わせを行い、どちらの画面が表示されても対処できるようにカスタマイズします。

***5*** インストールする製品の機能上、システムに対して再起動を要求してくる場合は、再起動を実行せずにインストールが終了するようにスクリプトを採取してください。

## 2.10.4 CSV ファイルフォーマットについて

使用する CSV ファイルの形式は、カンマで区切ったテキストのファイル形式です。ファイルは登録する画面に合わせてそれぞれ作成してください。それぞれ第 1 フィールド以外は空白にすることができます。ただし、入力必須項目は CSV ファイル取り込み後、入力してください。CSV ファイルの作成は、表計算ソフトを使用すると簡単です。

### ■ コンピュータ用

| | 第 1 フィールド | 第 2 フィールド | 第 3 フィールド | 第 4 フィールド | 第 5 フィールド |
|---|---|---|---|---|---|
| 入力項目 | コンピュータ名 | OS 種別 | IP アドレス | サブネットマスク | デフォルトゲートウェイ |

| | 第 1 フィールド | 第 2 フィールド | 第 3 フィールド | 第 4 フィールド | 第 5 フィールド |
|---|---|---|---|---|---|
| 設定値 | （半角<br>15 文字以内） | 5-Windows 2000 Professional / Server（MEMBER）<br>6-Windows Me<br>7-Windows XP Professional | 0-DHCP<br>xxx.xxx.xxx.xxx（第 1 オクテットは 1 ～ 223） | 0-DHCP<br>xxx.xxx.xxx.xxx | 0-DHCP<br>xxx.xxx.xxx.xxx（第 1 オクテットは 1 ～ 223） |

例 1）Computer2,5,100.10.10.3,255.255.255.0,100.10.10.1
例 2）Computer4,,0,,

## ■ グループ用

| | 第 1 フィールド | 第 2 フィールド |
|---|---|---|
| 入力項目 | グループ名 | 説明 |
| 設定値 | 半角 20 文字以内 | 半角 64 文字以内 |

例）PG Group1,PG グループ

## ■ ユーザ用

| | 第 1 フィールド | 第 2 フィールド | 第 3 フィールド |
|---|---|---|---|
| 入力項目 | ユーザ名 | フルネーム | 説明 |
| 設定値 | 半角 20 文字以内 | 半角 64 文字以内 | 半角 48 文字以内 |

例）fuji,taro fuji, 富士太郎

## ■ 共有資源用

| | 第 1 フィールド | 第 2 フィールド | 第 3 フィールド |
|---|---|---|---|
| 入力項目 | 共有資源名 | ディレクトリ名 | 説明 |
| 設定値 | 半角 80 文字以内 | 半角 246 文字以内 | 半角 48 文字以内 |

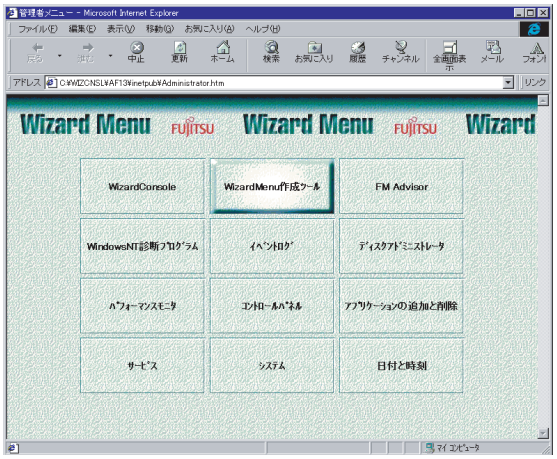
例）tool,c:¥tool, ツール用

# 2.11 WizardMenu によるデスクトップメニューの作成

WizardMenu は、クライアントコンピュータに表示するアプリケーション起動ツールです。

WizardMenu は、Internet Explorer 上で、ボタンを選択してアプリケーションを起動する機能です。
WizardMenu 作成ツールを使って、WizardMenu のボタンに任意のアプリケーションの起動を割り当てることができます。また、ボタンの大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けたり、自由な形式でアプリケーション起動ボタンを作成できます。

## ● メニュー作成例




WizardMenu を作成するには、「WizardMenu 作成ツール」を使用します。
WizardMenu 作成ツールを起動するには、サーバインストール終了後に「スタート」ボタン→「プログラム」→「ServerStart」→「Wizard Menu 作成ツール」の順にクリックします。

## 2.11.1 動作環境

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| 動作 OS | Windows 2000 Server |
| 必須ソフトウェア<br>（WWW サーバ） | Microsoft® Internet Information Server 3.0 以降<br>未インストールの場合、WizardMenu が正しく表示されません。 |
| 必須ソフトウェア<br>（WWW クライアント） | Microsoft® Internet Explorer 3.02 以降 |
| 選択ソフトウェア | WizardMenu 作成ツールで作成した Web メニューを編集するときに必要です。<br>・ Microsoft® FrontPage® Express（Microsoft Internet Explorer 4.0 に添付）<br>・ Microsoft® FrontPage®<br>・ Microsoft® Visual InterDev™ |



## 2.11.2 WizardMenu を作成する

WizardMenu 作成ツールで作成した WizardMenu は、HTML ファイルとして指定のディレクトリに格納します。なお、WizardMenu 作成ツールでは、HTML ファイルとしての保存はできますが、再度その HTML ファイルを編集することはできません。
編集する場合は、WizardMenu 作成ツールの「ファイル」メニューの「WizardMenu 形式」（拡張子 .SWM）で保存してから編集操作を行ってください。

**1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ServerStart」→「WizardMenu 作成ツール」の順にクリックします。

**2** ［ファイル情報］タブを選択し、HTML ファイルの格納先、ファイル名を指定します。

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| ファイル名 | 保存するファイル名を指定します。指定できる文字列長は、保存先と合わせて 259 バイトまでです。 |
| 保存先 | 保存するファイルのディレクトリを指定します。指定できる文字列長は、ファイル名と合わせて 259 バイトまでです。 |
| ［参照］ | ファイル名を指定する画面が表示されます。ファイル名を指定すると「ファイル名」と「保存先」に情報が表示されます。 |

**POINT**

- ファイル名と保存先に情報を入力するまで、他のタブ情報（ボタンの配置／メニューのタイトル／背景の設定）を表示することはできません。

***3*** ［ボタンの配置］タブを選択し、表示するボタンの情報を設定します。

| 項目 | 内容 |
|---|---|
| ボタンの個数 | ボタンの個数を縦×横で指定します。デフォルトでは、縦は 4、横は 3 が設定されています。ボタンの個数（縦と横）は、カーソルが次のフィールドへ移動した時点で反映されます。個数に変更がある場合は、行が追加または削除されるメッセージが表示されます。指定できる範囲は、1 ～ 20 です。 |
| ボタンの大きさ | ボタンの大きさを縦×横で指定します。デフォルトでは、縦は 80、横は 180 が設定されています。指定できる範囲は、縦が 20 ～ 200、横が 20 ～ 600 です。 |
| ボタンの間隔 | ボタンとボタンの間隔をドット単位で指定します。デフォルトでは、5 が設定されています。指定できる範囲は、1 ～ 100 です。 |

***4*** ［メニューのタイトル］タブを選択し、表示するメニュータイトルのフォントの大きさや色を設定します。

***5*** ［背景の設定］タブを選択し、表示する背景の情報を設定します。

| 項目 | 内容 |
|---|---|
| 背景の色 | 背景の色を指定します。デフォルトは、白です。ボタンを選択すると、色を選択する画面が表示され、色を変更できます。 |
| 背景の画像ファイル | 背景で表示する画像ファイルを指定します。［参照］を選択すると、ファイル名を指定する画面が表示されます。ファイル名を指定する画面でファイルを選択すると、ファイル名が表示されます。指定できる画像データは、BMP、GIF、JPG です。 |

**6**　各ボタンの設定をします。

| No. | 表題 | フォント名 | 表題の色 | ボタンの色 | 通常の画像 | 押下の画像 | 選択の画像 | 上書き表示 | ボタンの形状 | 二重起動抑止 | コマンド | 起動先 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | System,0,14 | 0x000000 | 0xffffff | | | | ✓ | ✓ | ✓ | | Client |
| 2 | | System,0,14 | 0x000000 | 0xffffff | | | | ✓ | ✓ | ✓ | | Client |
| 3 | | System,0,14 | 0x000000 | 0xffffff | | | | ✓ | ✓ | ✓ | | Client |
| 4 | | System,0,14 | 0x000000 | 0xffffff | | | | ✓ | ✓ | ✓ | | Client |
| 5 | | System,0,14 | 0x000000 | 0xffffff | | | | ✓ | ✓ | ✓ | | Client |
| 6 | | System,0,14 | 0x000000 | 0xffffff | | | | ✓ | ✓ | ✓ | | Client |
| 7 | | System,0,14 | 0x000000 | 0xffffff | | | | ✓ | ✓ | ✓ | | Client |
| 8 | | System,0,14 | 0x000000 | 0xffffff | | | | ✓ | ✓ | ✓ | | Client |
| 9 | | System,0,14 | 0x000000 | 0xffffff | | | | ✓ | ✓ | ✓ | | Client |
| 10 | | System,0,14 | 0x000000 | 0xffffff | | | | ✓ | ✓ | ✓ | | Client |
| 11 | | System,0,14 | 0x000000 | 0xffffff | | | | ✓ | ✓ | ✓ | | Client |
| 12 | | System,0,14 | 0x000000 | 0xffffff | | | | ✓ | ✓ | ✓ | | Client |

| 項目 | | 内容 |
|---|---|---|
| 表題 | | ボタンに表示する表題を指定します。指定可能な文字列長は、64 文字です。表題は、ボタン上にセンタリングされて表示されます。そのため、ボタンの大きさより長い文字列を指定すると、文字列の両端が欠けたように表示されます。 |
| フォント名 | | 表題のフォント名を指定します。 |
| 表題の色 | | 表題の文字の色を指定します。 |
| ボタンの色 | | ボタンの色を指定します。 |
| 通常の画像 | | ボタンが選択されていないとき表示する画像データを指定します。 |
| 押下の画像 | | ボタンが選択されているとき表示する画像データを指定します。 |
| 選択の画像 | | ボタンにフォーカスが当たっているとき表示する画像データを指定します。 |
| 上書き表示 | | チェックすると表題の文字を画像データの上に表示します。 |
| ボタンの形状 | | チェックすると立体タイプ、チェックしない場合は平面タイプのボタンを表示します。 |
| 二重起動抑止 | | チェックすると起動するコマンドの二重起動を抑止します。 |
| コマンド | | ボタンを押したときに起動するコマンドを指定します。 |
| 起動先 | | |
| | ClientWeb | Web メニューが表示されているクライアントコンピュータで指定したコマンドを起動します。 |
| | Server | サーバで指定したコマンドを起動します。 |
| 起動ホスト名 | | 起動するサーバ名を指定します。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。 |
| タイムアウト | | サーバとの通信タイムアウト時間をしています。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。 |
| ユーザ認証 | | |
| | 指定なし | ユーザ名、パスワードの指定をしません。 |
| | 1 回のみ | ボタンを選択した 1 回目のみユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。 |
| | 必ず指定 | ボタンを選択する度に、必ずユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。 |

**7**　「ファイル」メニューから「WizardMenu 形式」→「保存」の順にクリックします。

WizardMenu を WizardMenu 形式（拡張子 .SWM）で保存します。

# 2.12 WizardConsole のアンインストール

WizardConsole のアンインストール方法について説明します。

**重要**

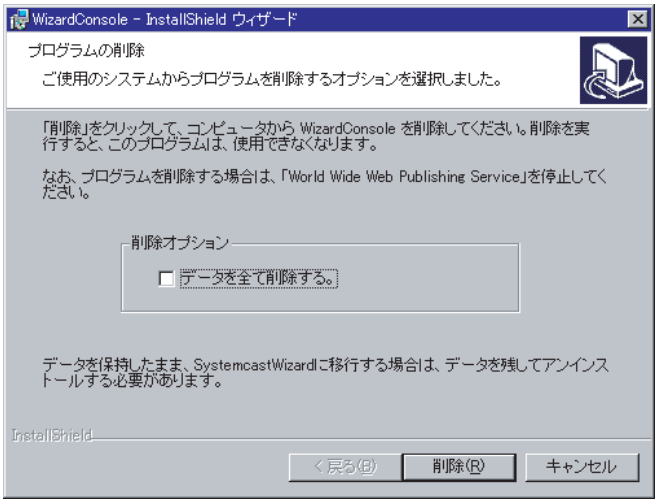
- WizardConsole のアンインストールを行う前に、起動しているすべてのプログラムを終了させてください。
- WizardConsole　機能を削除する場合は、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で行います。

**1** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

**2** ［アプリケーションの追加と削除］をダブルクリックします。

**3** 「WizardConsole」を選択し、［追加と削除］をクリックします。

次の画面が表示されます。




**POINT**

- 「データを全て削除する」にチェックを付けた場合は、クライアントセットアップ、リモート OS セットアップなどにより取り込み済みのデータすべてが削除されます。チェックを付けない場合は、削除されません。アンインストール後削除する場合は手動でデータフォルダを削除してください。

**4** ［削除］をクリックします。

アンインストールが行われ、完了画面が表示されます。

**5** ［完了］をクリックします。

システムを再起動します。

**重要**

- アンインストール後は、必ずシステムを再起動してください。

**POINT**

- アンインストール後、インストール時に自動的に作成されるユーザアカウント（SWClientSetupUser、SWSetupUser）が必要ない場合は、以下の手順に従ってアカウントを削除してください。
  ・＜ Windows 2000 Server ドメインコントローラ＞
  コントロールパネルを起動し、「管理ツール」から「Active Direrctory ユーザーとコンピュータ」を起動して、作成した OU または User から「SWClientSetupUser」と「SWSetupUser」を削除してください。
- アンインストール後、"C:¥WZCNSL" フォルダが残る場合があります。エクスプローラなどを利用して、手動で削除してください。
  C:¥WZCNSL¥desktop フォルダが残っている場合は、「World Wide Web Publishing Service」を停止してからフォルダを削除してください。

# 索　引


## あ

アカウントの関連付け . . . . . 46
アンインストール
　WizardConsole . . . . . 90

## き

共有資源の追加／変更 . . . . . 45

## く

クライアントコンピュータ
　追加／変更 . . . . . 37
　追加／変更時の留意事項 . . . . . 82
クライアントセットアップ . . . . . 54
　アプリケーションの削除 . . . . . 83
　留意事項 . . . . . 82
クライアントのデスクトップ環境設定. . . . 63
クライアントブート設定 . . . . . 69
クライアントへのインストール . . . . . 74
グループの追加／変更 . . . . . 44

## こ

コンピュータ
　一括導入 . . . . . 40
　情報の削除 . . . . . 41
　情報の取得 . . . . . 40
　情報の変更／追加 . . . . . 39

## す

スタンドアロンサーバ . . . . . 10
　スタンドアロンサーバの構成 . . . . . 30

## せ

セットアップ資源
　クライアントへインストールされるタイミング . . . . . 78
　サーバへの登録. . . . . 60
　登録の解除 . . . . . 62
セットアップ情報
　登録（アプリケーション）. . . . . 57
　登録（実行コマンド）. . . . . 59
　登録（ファイル）. . . . . 59
　内容確認／設定変更 . . . . . 60
セットアップの流れ
　クライアント . . . . . 32

## て

デスクトップ環境設定 . . . . . .63, 66

## と

ドメインコントローラ . . . . . .8
　Active Directory ドメイン . . . . . .8
ドメインツリーの構築 . . . . . .16
ドメインメンバサーバ . . . . . .10
　ドメインメンバサーバの構成 . . . . . .28
トラブルシューティング
　WizardConsole 使用時 . . . . . .80

## ゆ

ユーザの追加／変更. . . . . .43

## り

リモート OS セットアップ . . . . . .50

## A

Active Directory の構成
　新しいツリー . . . . . .14
　新しいフォレストの構築 . . . . . .11
　子ドメイン . . . . . .24
　追加ドメインコントローラ. . . . . .20

## C

CD-ROM イメージの削除. . . . . .53
ClientWizard 用ブート設定. . . . . .73
CSV ファイルフォーマット . . . . . .84

## D

DNS ゾーンの作成 . . . . . .14

## M

MS-DOS LAN マネージャ . . . . . .35
MS-DOS イメージの削除. . . . . .70
MS-DOS イメージの作成. . . . . .69

## O

OS セットアップ情報
　確認／変更 . . . . . .53
　登録名の変更 . . . . . .52
OS セットアップ情報の設定 . . . . . .51
OS セットアップ用ブート設定 . . . . . .71

## T

TCP/IP プロトコル . . . . . 36

## W

WizardConsole . . . . . 32
各 OS で利用可能な機能 . . . . . 34
起動 . . . . . 33
機能概要 . . . . . 33
使用時の留意事項 . . . . . 80
変更した情報の登録. . . . . 79
利用のための準備 . . . . . 35
WizardMenu
作成 . . . . . 87
デスクトップメニューの作成 . . . . . 86

ServerStart **活用ガイド**

B7FH-2311-01 Z0-00

**発 行 日**　2004 **年** 5 **月**
**発行責任**　**富士通株式会社**

●本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。